

## 5. スポーツ教育指導者養成システム

### 5-1 指導者養成機関

#### 5-1-1 シリアのスポーツ教育指導者養成機関

シリアにおける専門的なスポーツ教育指導者養成は、1967年にダマスカス男子体育師範学校の設立により開始された<sup>35</sup>。そして翌年の1968年、アレッポに女子体育師範学校が設立された。これらの両養成機関においては体育科コースのみの設置であったが、1978年には、「軍事教育科」が、男子体育師範学校、女子体育師範学校の両校において設置され、軍事教育の教員養成も体育師範学校で行われるようになった。1979年までは上述の2校のみで養成が行われてきたが、1980年にダマスカスに女子体育師範学校が設立されると、次々と地方都市に体育師範学校が設立され、1984年には11校にまで増えていった<sup>36</sup>。1968年には179人であった体育師範学校の学生数は、1981年には1,000人を上回り、1983年には、3,946人と急激に養成数が増大していった。その後、養成機関数は減り、1989年にダマスカス、アレッポに男子・女子体育師範学校がそれぞれ2校ずつと、ハッサケ、デリゾールに1校ずつの共学の体育師範学校と、計6校での養成となり、現在も、この6校での養成が続いている。また、学生数も1987年から1989年の間に急激に減少したが、その後はほぼ一定の学生数に落ち着いている。

現在は、6校の体育師範学校及び、ティシュリーン大学体育学部、アレッポスポーツ研修センターにおいて、指導者養成が行われている。体育師範学校についてであるが、体育科、軍事教育科の2つのコースがある。最も新しい統計によれば、体育科の学生数は表5-1に示す通りである。尚、軍事教育科の学生数については1995年以降は記載がなかった。

表5-1 体育師範学校数と学生数（1996-1997年度）

都市	学校数	1年			2年			合計		
		男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
ダマスカス	2	97	106	203	57	92	149	154	198	352
アレッポ	2	88	81	169	79	91	170	167	172	339
ハッサケ	1	20	19	39	22	19	41	42	38	80
デリゾール	1	16	18	34	14	18	32	30	36	66
合計	6	221	224	445	172	220	392	393	444	837

出所：Ministry of Education, *Statistics of Education and Exams for School Year 1996-1997* より作成。

<sup>35</sup> なお、日本ユネスコ国内委員会（1963）p. 1105の学校系統図及び、p. 1112によれば、アラブ連合国の時代は、中等教育のレベルで小学校の体育教師の養成が行われていた。

<sup>36</sup> Ministry of Education, *Statistics of Education and Exams for School Year. (1984-1985)* p. 552によれば、ダマスカス、アレッポ、ホムス、ラタキア、デリゾールにそれぞれ2校ずつの体育師範学校とハマ女子体育師範学校の計11校が存在していた。

また、教職員の人数及び、資格の状況は表 5-2 に示す通りである。修士号以上の高い資格を持った教職員は、3 名のみと少なく、大半は師範学校卒業の資格を持つ教職員となっている。

表 5-2 体育師範学校における教職員の資格 (1996-1997 年度)

都市	性別	博士号	修士号	学士号	大学卒	師範卒	合計
ダマスカス	男	—	1	—	11	10	22
	女	1	1	—	5	11	18
	合計	1	2	—	16	21	40
アレppo	男	—	—	—	44	16	60
	女	—	—	—	—	14	14
	合計	—	—	—	44	30	74
ハッサケ	男	—	—	—	2	10	12
	女	—	—	—	—	2	2
	合計	—	—	—	2	12	14
デリゾール	男	—	—	—	1	6	7
	女	—	—	—	—	2	2
	合計	—	—	—	1	8	9
合計	男	—	1	—	58	42	101
	女	1	1	—	5	29	36
	合計	1	2	—	63	71	137

出所：Ministry of Education, *Statistics of Education and Exams for School Year 1996-1997* より作成。

アレppoでは全教官 74 人のうち 44 人が大学卒業以上の資格を所有しているのに対し、ハッサケとデリゾールでは計 23 人の教官のうち、大学卒業以上の資格所有者は 3 人しかいないといった地域差（学校差）がみられる。また同時に、全ての体育師範学校男性教職員 101 人のうち、大学卒業以上の資格所有者が 59 人いるのに対し、女性教職員 36 人のうち、大学卒業以上の資格所有者は 7 人となっており、男女による資格の差も見受けられた。

1995 年まで、2 年制の体育師範学校がシリア唯一の指導者養成機関であったが、同年にティシュリーン大学に体育学部が設立され、4 年制の指導者養成がスタートした。体育学部には、学校体育コース、スポーツ・コーチコース、スポーツ・マネージメントコースの 3 つのコース、及び修士課程、博士課程の設置が検討されているが、まだ計画の段階に留まっている<sup>37</sup>。

現在の学生数及び教職員の人数や資格などについてであるが、体育学部長によると、教員数は、2001 年 1 月時点で 47 人であり、そのうち、博士号所有者が 7 名、修士号所有者が 20 名、また 20 名が大学卒業資格を有している。博士号所有者の 7 名中 4 名は医学や薬学の分野の学位で、3 名が体育に関する学位での取得であるという。2 年制の体育師範学校では、師範学校卒業資格しか有していない教職員が多くいたのであるが、体育学部には、師範学校卒業資格の教員がおらず、教員の質もより高くなっているといえる。

<sup>37</sup> 『ティシュリーン大学体育学部に規』(出版年不詳、アラビア語)、未出版内部資料、及び、2001 年 1 月 11 日に、ティシュリーン大学体育学部長ウサマ・ハッサン氏に対して行ったインタビュー調査による。

しかし、修士課程・博士課程を設置するために必要な教員は不足しており、現在の学部生のうち、優秀な成績を修めた者を、海外に留学させて、高い資格を取らせ、彼らの帰国後に、ティシュリーン大学の教員として採用することで、修士課程・博士課程を設置したいとのことであった。

体育学部が設立されるまでは、大学卒業資格を取得するために、海外留学が行われていたが、今後は修士号、博士号の取得を目的とした留学が増えていくものと推測され、シリア国内のみで指導者養成・研究者養成を行うためには、まだ時間を要するといえる。

また、シリアには、1993年に開設された、教育省管轄のアレッポスポーツ研修センターにおいて、スポーツ教育指導者のトレーニングもスタートした。ここでは、体育師範学校卒業資格を有する指導者に対して、9ヵ月にわたって、スポーツ種目ごとの研修がなされている。この機関には、師範学校を優秀な成績で卒業した、卒業直後及び数年の指導経験を持った指導者で25歳以下の者が、各14都市から、3名ずつ選抜されるシステムになっている<sup>38</sup>。さまざまなスポーツ種目のスペシャリストの養成が行われるようになっている。

また、ティシュリーン大学体育学部の学生数であるが、学部4学年あわせて600人であり、その内訳（2001年1月現在）は以下の通りである。

- 第1学年：220名
- 第2学年：150名
- 第3学年：130名
- 第4学年：100名

年々、学生数が増加していることがわかる。尚、2001年1月現在、既に2学年分の卒業生が輩出されているが、第2期生卒業生数が70名、第1期生卒業生数45名と、6年間で学生の受け入れも5倍近く増加している。また、修士課程、博士課程はまだ設立されておらず、現時点ではこれらの学位は海外でしか取得できない。このことについて、体育学部長は、「2年後を目処に修士課程は設置したい。博士課程となるとはまだ先の話になるだろう」と述べている<sup>39</sup>。

### 5-1-2 ジョルダンのスポーツ教育指導者養成機関

ジョルダンにおける専門的なスポーツ教育指導者養成は、ジョルダン大学体育学部が開設された1979年から本格的に開始された<sup>40</sup>。それ以前にも2年制の教員養成機関において教員養成は実施されていたが、ディプロマを取得できるようなコースではなかった。今回の調査では、2年制の体育教員養成の開始時期については明らかにできなかった。

現在、ジョルダンにおいて、体育教員養成を実施している機関は以下の4学部である。

<sup>38</sup> 1997年12月17日、及び1998年10月11日、アレッポスポーツ研修センター長、アレフ・アガール・クラウワー氏に対して行ったインタビューによる。

<sup>39</sup> 2001年1月11日、ティシュリーン大学体育学部長ウサマ・ハッサン氏に対して行ったインタビューによる。

<sup>40</sup> 2000年12月19日、ジョルダン大学体育学部長バサーム・サワード・ハールーン氏に対して行ったインタビューによる。

- ・ジョルダン大学体育学部
- ・ヤムルーク大学体育学部
- ・ハシミテ大学体育学部
- ・ムータ大学芸術学部体育学科

これらの中でも、ジョルダン大学が最も伝統と歴史を有している。ジョルダン大学体育学部長によれば、ヤムルーク大学体育学部が 10 数年前に開設され、ハシミテ大学、ムータ大学の体育学部はこの数年で設立されたばかりであるとのことであった。これらの中でも、ジョルダン大学体育学部の状況について検討した。

まずは、教官の状況であるが、2000 年 12 月時点で、19 人が勤務している、そのうち、16 人が博士号を所有しており、3 名が修士号を所有している。博士号を所有している教官は“プロフェッサー”としての立場であり、修士号しか有していない教官は「インストラクター」「レクチャラー」としての立場と区別されている。教授は「フルプロフェッサー」「アソシエイトプロフェッサー」「アシスタントプロフェッサー」とに分けられ、博士号所有者がその立場を得ることができる。博士号を所有していない場合、「インストラクター」「レクチャラー」としての立場にとどまるシステムになっている<sup>41</sup>。なお、ここでの教官の所有する博士号は、国外で取得されたもので、その中でもイラク、ロシア、アメリカなどで取得されたものが多いという。この体育学部では、修士課程は 1987 年に開設されており、博士課程が 2001 年度開設予定で、2000 年 12 月現在、その準備中という状況であった。

なお、ジョルダン大学体育学部の学生数であるが、学部長及び事務長らによれば、現在、学士課程に 640 人、修士課程に 56 人の在籍となっている。そのうち、女子学生が約 4 割を占めているという。

### 5-1-3 エジプトのスポーツ教育指導者養成機関

エジプトにおける専門的なスポーツ教育指導者養成は、男女ともに、1937 年以降に開始されたという。1937 年当初は前期中等学校終了時に入学できる 3 年制の養成機関において体育教員養成が実施されていた。当初は、カイロ内の 2 箇所（ギザゲンドキ、オルマン）に養成機関があった<sup>42</sup>。女子体育学部では、1939 年には家庭科や音楽を教える教員と同様の芸術系の教員という枠組みで教員が養成されていた。その後、高卒者を受け入れることになり、教育期間は 4 年へと増やされた。また、1949 年には、高等教育機関となり、高卒者のみを扱うようになって、養成期間は再び 3 年となった。1957 年には研究計画が変更され、4 年制となり、ついに学生は体育教員としての証書を受け取るようになった。最初の卒業生は、1961 年卒業であった<sup>43</sup>。1968 年には、学士号の 1 つ上の学位であるディプロマ取得のための高等研究課程が開始し、1974 年には、博士課程が設置された。1975 年に男子体育

<sup>41</sup> 2000 年 12 月 19 日、ジョルダン大学体育学部長バサーム・サワード・ハールーン氏に対して行ったインタビュー及び、The Hashimite Kingdom of Jordan Council of Higher Education (1999) pp. 30-40.における統計上の区分けによる。

<sup>42</sup> 2000 年 12 月 31 日にヘロワン大学男子体育学部副学部長アフマド・マーハル・アヌール氏に対して行ったインタビューによる。

<sup>43</sup> 注 42 のインタビュー及び、ヘロワン大学女子体育学部内規 (2000) p.18 による。

学部が、1976年に女子体育学部が現在のヘロワン大学に設立された。

現在、エジプトにおいては、以下の13個所の体育学部（4年制）において、スポーツ教育指導者養成が実施されている<sup>44</sup>。

1. ヘロワン大学男子体育学部（ギザ）
2. ヘロワン大学女子体育学部（ゲジーラ）
3. アレキサンドリア大学体育学部
4. アレキサンドリア大学女子体育学部
5. メニア大学体育学部
6. アシュート大学体育学部
7. ポートサイド大学体育学部
8. モヌーフイーヤ大学体育学部
9. マンスーラ大学体育学部
10. タンタ大学男子体育学部
11. タンタ大学女子体育学部
12. ザガジーク大学男子体育学部
13. ザガジーク大学女子体育学部

以上の体育学部の中、今回の調査では、ヘロワン大学男子体育学部と女子体育学部の状況について検討を行った<sup>45</sup>。ヘロワン大学男子体育学部、女子体育学部のそれぞれの教官の人数・役職は以下の表5-3の通りである。

表5-3 ヘロワン大学男子・女子体育学部の教官の役職

役職	男子体育学部	女子体育学部
教授	63	70
助教授	43	21
講師	72	52
計	178	143
準講師	89	41
助手	53	36
総合計	320	220

出所：ヘロワン大学男子体育学部副学部長、及びヘロワン大学女子体育学部副学部長に対して実施したインタビューを基に筆者作成。

これらの大学では、博士号を取得すると、最初は講師（ムダリス）として教職につき、その後昇進するシステムになっている。また、準講師は修士号取得者になれるもので、助手は学部卒業後になる

<sup>44</sup> 2000年12月31日にヘロワン大学男子体育学部長アフマド・マーハル・アヌール氏に対して行ったインタビューによる。

<sup>45</sup> 注42のインタビュー、及び、2000年12月31日に、ヘロワン大学女子体育学部副学部長マハーサン・アーマル氏に対して実施したインタビューを基にした情報である。

ことができるというシステムになっている。男子体育学部では、178 人もの博士号所有者がいるが、女子体育学部の場合、教師以上の 143 人全てが博士号を所有している状況ではないという<sup>46</sup>。

上述の通り、体育学部の教官の数も多く、その資格は、わが国と比べても高いものといえる。また、女子体育学部の教官はその全員が女性であるが、教官のうちのほとんどが体育関係の博士号を所有しているなど、教官の資質は極めて高い状況にあるといえよう。

現在、博士号の多くは、カイロ内で取得されているが、外国では、ロシア、アメリカ、ドイツなどにおいて、その多くが取得されていた。特に、1950～1960 年代にロシア政府奨学金によって修学し、ロシアで取得したものが多かった。

次に学生数を見てみよう。

男子体育学部の学生数は計 3,902 人（1 学年 1,066 人、2 学年 1,503 人、3 学年 694 人、4 学年 639 人）、そして、大学院在籍者が約 600 人いるとされている<sup>47</sup>。

女子体育学部における現在在籍している学生数については明らかにしえなかったが、卒業生数で見ると、1999 年度は 260 名、1998 年度が 257 名となっており、1970 年以降毎年 200 名以上の卒業生を輩出している<sup>48</sup>。なお、現在大学院に在籍している学生数は約 60 人前後とのことであった。なお、エジプトにおける進学のシステムとしては、学部卒業後、ディプロマコース 1 年、修士課程 2 年間、博士課程 3 年間といった形が基準となっている。

## 5-2 養成カリキュラムの特色

### 5-2-1 シリアの養成カリキュラム

ここではシリアの体育師範学校及びティシュリーン大学体育学部の養成カリキュラムについて検討する。まず、体育師範学校における体育科、軍事教育科の養成カリキュラムの科目名及び週あたり時間数は表 5-4 に示す通りである。

---

<sup>46</sup> 注 45 のヘロワン大学女子体育学部副学部長に対して行ったインタビューによる。

<sup>47</sup> 2000 年 12 月 31 日にヘロワン大学男子体育学部長アフマド・マーハル・アヌール氏に対して行ったインタビューによる。

<sup>48</sup> ヘロワン大学女子体育学部（2000）p. 22.

表5-4 シリアにおける体育師範学校における養成カリキュラム

科目	男子学生				女子学生			
	1 学年		2 学年		1 学年		2 学年	
	体	軍	体	軍	体	軍	体	軍
国家社会主義教育	2	1	1	1	2	2	2	2
スポーツ心理学	1	1	1	1	1	1	1	1
教育方法学	1	1	1	1	1	1	1	1
教育原理	1	1	1	1	1	1	1	1
体育教育理論	1	1	2	1	1	1	2	1
スポーツトレーニング原理	—	—	2	—	—	—	2	—
マネージメント	—	—	1	1	—	—	1	1
人体解剖学	3	3	—	—	3	3	—	—
生理学	—	—	2	2	—	—	2	2
健康と病気	1	1	—	—	1	1	—	—
運動傷害	1	1	—	—	1	1	—	—
自然治癒	—	—	1	1	—	—	1	1
水泳—ダイビングと小ゲーム	2	1	1	—	2	1	1	—
アラビア語	2	2	2	2	2	2	2	2
陸上競技	5	4	5	2	5	4	5	2
サッカー	3	1	3	—	1	1	—	—
バスケットボール	2	1	2	1	2	1	2	1
ハンドボール	2	1	2	1	2	1	2	1
バレーボール	2	1	2	1	2	1	2	1
運動	3	2	3	2	3	2	3	2
体操	3	2	2	2	3	2	3	2
調和運動	—	—	—	—	2	—	2	—
格闘技	2	—	—	—	2	—	—	—
体育教育実習	4	4	6	3	4	4	6	3
軍事教育実習	—	—	—	3	—	—	—	3
武器、射撃	—	2	—	2	—	2	—	3
用兵学、戦法	—	2	—	3	—	1	—	2
秩序システム	—	1	—	2	—	2	—	2
軍事健康	—	1	—	—	—	—	—	2
救急処置	—	—	—	—	—	1	—	2
軍事安全	—	—	—	1	—	—	—	1
サービスマニュアル	—	1	—	—	—	1	—	—
局所解剖学	—	1	—	1	—	1	—	1
市民防衛と現代破壊兵器	—	1	—	2	—	1	—	1
エンジニアリング	—	1	—	1	—	1	—	1
軍事教育とコミュニケーションシステム	—	—	—	1	—	—	—	1
合計	41	39	40	39	41	40	41	43

出所：シリア教育省（1985）pp. 4-5 より筆者作成。

シリアのすべての体育師範学校において、以上に示すカリキュラムが施行されている。体育科と軍事教育科ではカリキュラムが異なっている。体育科は、軍事教育関連科目を全く受講しないのに対し、軍事教育科は、軍事教育関連科目に加え、体育科の科目も受講するようになっている。スポーツ種目

は、指導要領で取り上げられている種目で構成されており、その中でも、陸上競技に多くの時間が割り当てられている。なお、指導要領の中でも、授業時間外に行う活動とされている卓球については、養成カリキュラムに取り入れられていない。

また、教育実習の実施時間が多く、全授業時間の13%を占める時間が割り当てられており、1年間という長い期間にわたって実施されている。教育実習については1学年の前期は師範学校内での講義及び実習を行い、1学年後期から、実習校へ赴いて授業を行い、2学年時は前後期にわたって、実習校での実習が行われる。前期には小学校での実習が行われ、後期には中学校・高等学校での実習が行われる<sup>49</sup>。また、軍事教育科の学生は、1学年は、体育の実習を行い、2学年に体育と軍事教育の2種類の実習が課されている。

カリキュラムにおける男女差については、まず体育科では、男子学生がサッカーを2年間通して週3時間課されているのに対し、女子学生は、1学年で週1時間のみになっていること、また調和運動は女子学生にのみ課されていることが挙げられる。また軍事教育科においては、「用兵学、戦法」は男子学生に、「軍事健康」「救急処置」は女子学生に、それぞれ多くの時間があてられている。現行のカリキュラムは、1985年度入学の学生から適用されたのであるが、その後、幾分か調整がなされた結果、表5-4に示される通りとなった<sup>50</sup>。

また、すべての科目について、前後期で2回の試験を受けるようになっているが、1学年の学年末に行われる進級試験、2学年の学年末に行われる卒業試験がそれぞれ特に重要な試験となっている。なお、合格最低点を取れなかった場合、留年となるが、留年は1年間のみ許されることになっている<sup>51</sup>。また、試験は、実技試験、筆記試験の2種類に分かれており、体育科では、アラビア語、陸上競技、そして、教育実習などの配点が高くなっている。

次にティシュリーン大学の体育学部のカリキュラムであるが、ここでは学校体育コース、スポーツ・コーチコース、スポーツ・マネジメントコースの3種類のコースの設置が検討されており、1・2学年は、全コースにおいて同じカリキュラムで、3学年以降はそれぞれのコースによりカリキュラムが設定されている。このコース設定は、2001年1月現在1学年次である学生が3学年次になったときから、適用されることになる。体育師範学校とのカリキュラムの違いとしては、まずは、軍事教育関係の講義がないこと、そして、各科目が科目群として分けられていることであろう。ここでは、カリキュラムを科目群に分類し、それぞれの時間数とその割合を以下に示す表5-5の通り、整理した。

ティシュリーン大学体育学部のカリキュラムは、以下の9つの科目群に分かれている。それぞれのコースにより、科目群の配分割合が異なる。いずれのコースにおいても「運動競技の原理・指導」に関する科目が最も大きな割合を占めており、学校体育コースにおいては、全授業の半分近くが運動競技に関するものであり、実際の指導に重点が置かれているといえる。また、スポーツ・コーチコース、

<sup>49</sup> 1998～2001年にかけて、筆者は、ダマスカス男子体育師範学校の教育実習担当教官に同行し、数多くの教育実習を観察したが、その際に教育実習のシステムについての情報を得た。

<sup>50</sup> ダマスカス、アレppoの体育師範学校長によれば、ニーズに応じて、多少のカリキュラムは変更することもあるという。筆者が入手した『体育師範学校内規』においても、若干の訂正が書き込まれており、ここでは訂正後の情報を用いた。

<sup>51</sup> 1996～1997年度の統計では、全師範学校の体育科の学生、全837人のうち、34人の学生が進級試験及び卒業試験を不合格となっている。



スポーツ・マネジメントコースでは各競技の指導についての科目の代わりに、スポーツ・コーチコースでは、「スポーツトレーニング」群、スポーツ・マネジメントコースでは、「スポーツとエンターテイメント行政」群に多くの時間が割り当てられている。これらの、スポーツ・コーチコース、スポーツ・マネジメントコースで取り扱われるスポーツ専門トレーニングの科目、スポーツ行政分野の科目は、体育師範学校のカリキュラムの中では、ほとんど取り扱われていなかった。これらのことから、体育師範学校では、体育教師の養成に重点が置かれていたことに対し、ティシュリーン大学では、体育教師に加え、スポーツ指導者、スポーツ行政官の養成にも重点を置くことを目指しているといえる。

表5-5 ティシュリーン大学体育学部の各コースごとの科目群時間数とその割合

科目群	科目	学校体育コース				コーチコース				マネジメントコース			
		理論	実技	計	計%	理論	実技	計	計%	理論	実技	計	計%
教育方法と 体育科目	教育理論とスポーツ教授法(1)	8	-	8	10 3.6%	8	-	8	14 5.2%	8	-	8	10 3.7%
	体育の試験と評価	2	-	2		2	-	2		2	-	2	
	身体の育成	-	-	-		2	2	4		-	-	-	
スポーツ トレーニング	スポーツ専門トレーニング	-	-	-	6 2.2%	8	28	36	38 14.1%	-	-	-	-
	スポーツトレーニング科学	6	-	6		-	-	-		-	-	-	
	スポーツトレーニング法	-	-	-		2	-	2		-	-	-	
スポーツと エンター テイメント 行政	体育教育の組織と行政	2	-	2	2 0.7%	-	-	-	6 2.2%	-	-	-	50 18.6%
	スポーツリーダーシップ心理学	-	-	-		-	-	-		2	-	2	
	スポーツ行政	-	-	-		-	-	-		2	2	4	
	スポーツ競技会運営	-	-	-		2	2	4		2	2	4	
	エンターテイメント組織の運営	-	-	-		2	-	2		2	-	2	
スポーツ 健康科学	スポーツ特別行政	-	-	-	8 2.9%	-	-	-	6 2.2%	8	32	40	8 3.0%
	スポーツ医学	2	2	4		-	-	-		-	-	-	
	身体的扱い(薬物)	2	2	4		-	-	-		-	-	-	
	スポーツマッサージ	-	-	-		-	-	-		2	2	4	
	運動障害	-	-	-		2	-	2		-	-	-	
	スポーツ食事学	-	-	-		2	-	2		2	-	2	
スポーツの 運動科学	スポーツトレーニング生理学	-	-	-	2 0.7%	-	-	-	2 0.7%	-	-	-	-
	救急処置	-	-	-		-	-	-		2	-	2	
基礎スポーツ 科学	スポーツ運動科学	2	-	2	2 0.7%	-	-	-	2 0.7%	-	-	-	-
	エネルギーメカニズム	-	-	-		2	-	2		2	-	2	
運動競技の 原理・指導	体育の科学的調査方法	2	-	2	160 58.3%	2	-	2	116 43.0%	2	-	2	116 43.3%
	スポーツメディアとの関係	-	-	-		-	-	-		2	-	2	
	運動・体操の原理(男子)	8	16	24		8	16	24		8	16	24	
	運動・体操・表現活動の原理(女子)	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
	運動・体操の指導(男子)	4	8	12		-	-	-		-	-	-	
	運動・体操・表現活動の指導(女子)	8	32	40		8	32	40		8	32	40	
	集団ゲーム原理	4	16	20		-	-	-		-	-	-	
	集団ゲーム指導	8	16	24		8	16	24		8	16	24	
	陸上競技原理	4	8	12		-	-	-		-	-	-	
	陸上競技指導	4	8	12		4	8	12		4	8	12	
実習	格闘技と水中運動原理	4	12	16	4	12	16	4	12	16			
	格闘技と水中運動指導	4	12	16	4	12	16	4	12	16			
その他	教育実習	6	12	18	18 6.6%	6	12	18	20 7.4%	6	12	18	20 7.5%
	スポーツ企画	-	-	-		2	-	2		2	-	2	
	国家社会主義文化	8	-	8	66 24.1%	8	-	8	66 24.4%	8	-	8	60 22.4%
	生理学	4	4	8		2	2	4		2	2	4	
	解剖学	2	2	4		2	2	4		2	2	4	
	健康概論	2	-	2		2	-	2		2	-	2	
	アラビア語	20	-	20		18	4	22		16	-	16	
	外国語	12	-	12		12	2	14		12	-	12	
	経済入門	4	4	8		4	4	8		4	4	8	
	コンピュータ入門	-	-	-		-	-	-		2	-	2	
心理学概論	2	-	2	2		-	2	2		-	2		
スポーツ心理学	2	-	2	2		-	2	2		-	2		
				274				270				268	

## 5-2-2 ジョルダンの養成カリキュラム

ここでは、ジョルダン大学体育学部のスポーツ指導者養成カリキュラムについての検討を行った。ジョルダン大学の体育学部では、以下の3コースが設置されている。

- ①体育教育専攻
- ②スポーツ運営・トレーニング専攻
- ③健康・レクリエーション専攻

学生は4年間で、一般教育の科目を30時間、専門共通科目の科目を24時間、専門科目を66時間履修しなければならない。以下にそれぞれを整理する。

まず、30時間の一般教育科目であるが、18時間が必須、12時間が選択となっている。これらを整理したものが表5-6である。

表5-6 ジョルダン大学体育学部の養成カリキュラム

		科目名	理論	実践	必要な数
一般教育	必須科目	コミュニケーション技量/アラビア語 (1)	3		
		コミュニケーション技量/アラビア語 (2)	3		
		コミュニケーション技量/英語 (1)	3		
		コミュニケーション技量/英語 (2)	3		
		人類文明	3		
		軍事科学	3		
		合計		18	
	選択科目	コンピュータ応用	3		
		科学と社会	3		
		環境	3		
		民主主義	3		
		宗教教育	3		
		イスラム勢力	3		
		哲学	3		
		論理学	3		
		知識の理論	3		
		アラブ・イスラム文明	3		
		歴史とジョルダンの文明	3		
		社会心理学の紹介	3		
		芸術歴史	3		
概念と経済体系	3				
以上の科目から12時間選択：合計			12		
一般教育 合計			30		
専門共通必須科目	スポーツ教育原理と哲学	2			
	レクリエーションと余暇	2			
	運動の教授	2			
	スポーツ教育におけるコース	3			
	スポーツ教育統計	3			
	健康教育	3			
	身体準備	2	1		
	病理学的スポーツ解剖学	3			
スポーツ心理	3				
専門教育必須科目 合計			24		

必須科目	スポーツ教育の管理	3	—	3	
	男子サッカー (1)	1	2	2	
	バスケットボール (1)	1	2	2	
	バレーボール (1)	1	2	2	
	ハンドボール (1)	1	2	2	
	スポーツ生理学	3		3	
	陸上競技 (1)	1	2	2	
	体操 (1)	1	2	2	
	水泳 (1)	1	2	2	
	女子のリズム動作 (1)	1	2	2	
	ラケット競技 (1) (バドミントン・卓球)	1	2	2	
	男子サッカー (2)	1	2	2	
	バスケットボール (2)	1	2	2	
	バレーボール (2)	1	2	2	
	ハンドボール (2)	1	2	2	
	陸上競技 (2)	1	2	2	
	体操 (2)	1	2	2	
	水泳 (2)	1	2	2	
	女子リズム運動 (2)	1	2	2	
	スポーツ教育における比較調査	3		3	
	スポーツ教育の教授法	3		3	
	スポーツ訓練	3		3	
	教育実習		6	6	
	運動障害と救急処置	3		3	
	力学	3		3	
	必須科目 合計		50		
専門科目	その① 体育教育 専攻	小ゲーム	1	2	2
		ラケット競技 (テニス、スカッシュ)	1	2	2
		重量挙げ	1	2	2
		アーチェリー	1	2	2
	その② 体育教育専攻	フェンシング	1	2	2
		テコンドー	1	2	2
		スポーツ番組	1	2	2
		ボクシング	1	2	2
		レスリング	1	2	2
	武道	1	2	2	
	その① スポーツ 運営・トレー ニング専攻	男子サッカー上級	2	2	3
		バスケット上級	2	2	3
		バレーボール上級	2	2	3
		ハンドボール上級	2	2	3
	その② スポーツ運営 ・トレーニン グ専攻	陸上競技・上級	2	2	3
		体操・上級	2	2	3
		水泳・上級	2	2	3
		女子リズム運動・上級	2	2	3
		ラケット競技・上級	2	2	3
	*他は学部 の科目から 選択できる 健康・レ クリエーシ ョン専攻	スポーツ生理学	2		2
広報ならびに体育教育のマーケティング調査		2		2	
スポーツ技術		2		2	
生体力学		2		2	
個人スポーツ教育		2		2	
スポーツ医学		2		2	
身体健康計画		2		2	
コース別選択科目 合計		16			
専門科目 合計		66			

出所：ジョルダン大学体育学部（出版年不詳）より筆者作成。

以上の科目を、以下の表 5-7 のスケジュールに従い、履修することになる。なお、3 学年次から導入される「教育実習」は、その時点で 96 時間もの授業を受講し終えていないと参加できないシステムになっている。

表 5-7 ジョルダン大学体育学部の養成カリキュラム（履修スケジュール）

	第 1 学年		第 2 学年		第 3 学年		第 4 学年	
	1 学期	2 学期	1 学期	2 学期	1 学期	2 学期	1 学期	2 学期
スポーツ教育原理と哲学	3							
スポーツの病理的解剖学	3							
レクリエーションと余暇	2							
スポーツ教育のコース		3						
健康教育		3						
スポーツ教育統計		3						
スポーツ心理学		3						
スポーツ教育の運営			3					
スポーツ生理学				3				
スポーツ教育の技術と方法					3			
スポーツ教育の比較と調査						3		
力学						2		
体育教育							3	
運動障害と自然療法								3
身体準備	2							
男子サッカー (1)	2							
サッカー (2)				2				
バレーボール (1)	2							
バレーボール				2				
バスケットボール		2						
バスケットボール (2)					2			
ハンドボール (1)			2					
ハンドボール (2)					2			
女子リズム運動 (1)	2							
女子リズム運動				2				
水泳 (1)			2					
水泳 (2)					2			
ラケット競技 (1) (テニス、スカッシュ)			2					
陸上競技 (1)				2				
陸上競技 (2)					2			
体操 (1)				2				
体操 (2)						2		
運動学			2					
必須コース		3	3	3	3	3		
選択コース			3		3	3		3
科学コース選択						3	3	2
理論コース選択						2	2	2
必須コース選択							2	
コース選択								3
教育実習								
<b>合計</b>	<b>16</b>	<b>17</b>	<b>17</b>	<b>16</b>	<b>17</b>	<b>18</b>	<b>10</b>	<b>13</b>

出所：ジョルダン大学体育学部（出版年不詳）より筆者作成。

### 5-2-3 エジプトの養成カリキュラム

まずは、ヘロワン大学男子体育学部についてであるが、当該学部は、次の7つの専攻に分かれている。

- ・体育教授方法学
- ・トレーニング学
- ・スポーツ運営学
- ・スポーツ健康学
- ・スポーツ心理学
- ・スポーツリフレッシュ学
- ・スポーツ運動学

これらの専攻それぞれによって、選択する科目などが設定されてはいるが、このたびの調査では、養成カリキュラムの詳細については明らかにし得なかった。一方、ヘロワン大学女子体育学部では、男子体育学部のような専攻ごとの選択カリキュラムは設定されていない。ここでは、本調査において入手したヘロワン大学女子体育学部の養成カリキュラムからの検討を行う。なお、女子体育学部の資料には、各学年ごと、各学期ごとに時間割が掲載されている以外は、各専攻による履修方法や、必須・選択科目などについての記載はない。女子体育学部のカリキュラムは以下の表5-8に示す通りである。

表5-8 ヘロワン大学女子体育学部の養成カリキュラム

	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
記述的解剖学	4							
生理学（解剖）		4						
解剖学				2				
健康科学	4							
健康原理							4	
武器学	2			2				
体育史		4						
運動学			4					
教授法			4			4		
訓練法			2			2		
心理学			4			4		
スポーツ生理学			4					
体育計画				4				
テストと測定					4			
救急処置					4			
科学的調査							4	
外国語	4							
アラビア語		2						
小ゲーム	4							
ラケット競技	4			2				
陸上競技	6			6		6	6	

規律				4	4			
規律の形づくり								4
訓練		4	4		4			4
体操		4	4		4			4
活動的表現		4	4		4			4
リズム運動		2	4					
水泳		4	4					
バスケットボール				2		2	2	
ハンドボール				2		2	2	
バレーボール				2		1	2	
水泳					4			4
現地訓練					4			4
教育実習						4	4	
リフレッシュ							4	
運営								6
合計	28	32	34	26	32	26	28	30

出所：ヘロワン大学女子体育学部（2000）より筆者作成。

ヘロワン大学女子体育学部においても、第3学年から教育実習が開始される。尚、どの学生も15科目を履修し終えるまでは、3学年には進級できない。また、教育実習の評価にパスしないと、学士号を得ることはできないことになっている。

### 5-3 入学試験と卒業後の進路状況

#### 5-3-1 シリア

シリアの全ての体育師範学校において、同様の入学試験が実施されているが、試験の科目と配点は、以下の表5-9に示される通りである。

表5-9 体育師範学校入試配点

種目		配点
実技	サッカー	10
	ハンドボール	10
	バレーボール	10
	バスケットボール	10
	体操	30
	水泳	30
	陸上競技（走・投・跳各15）	45
	フィットネス（ダンス）	25
バカロレア（文系・理系）		240・260
面接		30
メディカルチェック		—

出所：ダマスカス男子・アレppo男子・アレppo女子・

体育師範学校校長とのインタビューより筆者作成。

実技試験の中のスポーツ種目は、指導要領で取り上げられているスポーツ種目と同じであり、また、養成カリキュラムの中での構成科目と同じである。受験者は、これら全ての種目についての試験を受験しなければならない。これらの中でも、養成カリキュラムにおける時間配分の高さと同様、陸上競技の配点が高くなっている。

試験による男女差は、サッカーが男子のみ、フィットネス（ダンス）が女子のみとなっている点について見られる。また、軍事教育科、体育科ともに、試験は同一であり、面接の内容が異なるのみである。

体育師範学校校長らの話によれば<sup>52</sup>、体育師範学校へ入学してくる学生の質について、必ずしも適性を備えていない学生が入学してくる事も多くあるとし、その理由として、シリアでは今なお、体育教員の不足があるため、定員は確保しなければならず、質の高い学生ばかりを選りすぐれる状況ではないという。しかし、いずれの校長も、近年、倍率も高まり、入学が難しくなりつつあると述べている。また、ここで必要とされているバカロレアについては、半分のスコアを取っておく必要がある<sup>53</sup>。次に、ティシュリーン大学体育学部の入学試験とその配点であるが、表 5-10 に示す通りである。

**表 5-10 ティシュリーン大学体育学部入試配点**

種目		配点
実技	サッカー	80
	ハンドボール	
	バレーボール	
	バスケットボール	
	体操	
	陸上競技	
	フィットネス	
バカロレア（文系・理系）		240・260
メディカルチェック		男子身長 165cm 以上 (体操選手以外)
競技実績に 応じて加点	シリアチャンピオン	60
	アラブチャンピオン	80
	アジアチャンピオン	100
	世界チャンピオン	120 (満点)

出所：ティシュリーン大学体育学部長とのインタビューより筆者作成。

まず、スポーツ種目については、水泳が設定されていない以外は、体育師範学校と同様の科目であるが、各種目の配点については、明らかにし得なかった。ここで、特徴的なのは、体育学部では競技実績に応じて加点するスタイルが取られていることである。また、身長などの制限も設けられている

<sup>52</sup> 筆者は、アレppo男子体育師範学校校長サフアン・ガザール氏（現在は退官されている）に1997年12月17日に、そして、アレppo女子体育師範学校校長アブデル・マレック・アカド氏に対して、1997年12月17日、及び1998年10月11日にインタビュー調査を行った。

<sup>53</sup> ティシュリーン大学前体育学部長ヌーリー・バラカート氏（1998年10月10日）及びアレppo女子体育師範学校校長アブデル・マレック・アカド氏（1998年10月11日）に対するインタビューによる。

ことから、競技能力を重視する傾向があるといえよう。このことは、前節で述べた養成カリキュラムの傾向と同様である。体育学部を訪問し、授業の観察や学生との面談を行った限りにおいても、実際に競技力の高い選手が多く見受けられた<sup>54</sup>。

次に、卒業後の進路であるが、体育師範学校については、師範学校長らの話によれば、ほとんどの生徒が教師になるとのことであった。軍事教育科に関しては、教員になることが義務づけられており、全員が卒業後に教師になる。体育科においても、ほぼ全員が体育教師になる状況にあるようである。

軍事教育科については、教師への採用試験は行われていないが、体育科の採用については、近年採用試験が行われるようになった<sup>55</sup>。採用試験は、教育省が実施する筆記試験と体育師範学校内で実施される実技試験にパスすることが必要とされている。採用試験は実技試験と筆記試験が50%ずつの配分となっている。ダマスカス男子師範学校校長によれば、実技の点数、つまり運動能力が高ければ、この採用試験には簡単に合格するということであり、教員の空きがなければ採用を待つこともあるが、試験自体は簡単なものであるという。これらについても入学試験と同様に、教員不足の現状がある以上、まずは需要を満たさなければならないことが優先し、優秀な教員を選びすぎる段階には至っていないものと思われる。しかし、体育師範学校への入学が難しくなってきたことに伴い、採用試験も難しくなっていくだろうというのが、師範学校校長らの意見であった。

またティシュリーン大学の学生の進路についてであるが、設立されたのが1995年であるため、まだ2期生分しか卒業生が輩出されていないが、体育学部長によれば、それらの卒業生のうち、15人を同学部の助手として採用する予定であるとのことであった。現在は、卒業したものの、進路が決まっていないものがほとんどであり、海外の研究機関へ修士号取得のために留学する機会を待っている卒業生も少なくないという<sup>56</sup>。

### 5-3-2 ジョルダン

次に、ジョルダン大学体育学部に入學するための試験であるが、体育関係の実技試験が実施されていない。ジョルダンにおいて高等教育機関へ進学するためには、中等教育終了時（後期中等学校終了時）に実施される「タウジーヒ」とよばれる統一試験で成績を残さなければならない。この試験結果で一律に進学先などが決まるケースが多いのであるが、ジョルダン大学体育学部に関しても、この統一試験の成績のみで入学が決定するシステムになっている。このことについて、体育学部長は「入学してくる学生の体育やスポーツに対する態度や考え方、経験などが不足しています。体育に関する身体的、技術的な問題に苦しんでおります。これまでスポーツ活動に関わっていない学生が入学してくるわけですから、我々は、この状況に不満を持っております」と述べているが、運動能力、スポーツ経験などに関係なく学生を選抜するこの状況は、確かに大きな課題であろうと思われる。また、同学

<sup>54</sup> 競技実績などについて調査を行ったわけではないが、筆者が1993～1995年にかけてシリアに滞在していたため、当国での国内優勝経験を持つ選手については詳しく、本調査においても、優秀な成績を残している選手を数多く見かけた。

<sup>55</sup> 1998年10月11日、アレppo女子体育師範学校校長アブデル・マレック・アカド氏に対して行ったインタビューによる。

<sup>56</sup> ティシュリーン大学卒業生数名に対して行ったインタビューによる。



部のムハンマド・ハリール教官<sup>57</sup>は、統一テスト「タウジーヒ」においても、低い点数のものが体育学部に入学する傾向にあるという。また同氏によれば、現在、ジョルダンの各競技のナショナルチームメンバーが運動実技テストを実施しようとテストを作っている段階にあり、ジョルダン大学体育学部以外の学部の入学試験では、採用されているとのことであった。

また、ジョルダンでの体育学部卒業後の進路については、やはり体育教員が圧倒的に多いという。体育教師に続き、スポーツセンター、ヘルスセンター、あるいは民間のスポーツクラブにおけるトレーナー、アドバイザーになるものも増えつつある。近年、ジョルダンの学校教育において、私立学校が増加する傾向にあるが、私立学校での教員採用も増加してきている。体育学部長によれば、私立学校の教員は公立学校の教員よりも給与も高いこともあり、学生の進路先の開拓という視点からも、非常に好ましい状況であるとのことであった。

### 5-3-3 エジプト

ヘロワン大学体育学部に入学するための試験と配点は表 5-11、表 5-12 に示す通りである。

表 5-11 ヘロワン大学男子体育学部入試配点

種目		配点	
フ イ ッ ト ネ ス カ ル	100m	10	60
	立ち幅とび	10	
	ジグザグラン	10	
	上体起こし	10	
	立位体前屈	10	
	800m	10	
選択スポーツ		40	
セントラルテスト			
面接			
体格検査・メディカルチェック			

出所：ヘロワン大学男子体育学部副学部長に対して行ったインタビューを基に筆者作成。

<sup>57</sup> ムハンマド・ハリール教官（インストラクター）。かつて筑波大学で修士号を取得している。

表 5-12 ヘロワン大学女子体育学部入試配点

種目		配点	
身体能力のテスト	スピード：100m	10	60
	持久力：600m	10	
	立ち幅とび	10	
	ソフトボール投げ	10	
	懸垂	10	
	ジグザグラン	10	
柔軟性*		10	
選択スポーツテスト		20	
セントラルテスト			
面接			
体格検査・メディカルチェック			

\*柔軟性：座って足を前に伸ばして前屈、足がどのくらい横に上がるかのテスト

\*選択スポーツ：水泳、柔道、ダンス、バレーなど、得意スポーツを選択

出所：ヘロワン大学女子体育学部副学部長に対して行ったインタビューにより筆者作成。

以上の通り、男女とも、わが国で実施されているようなスポーツテストが実施されており、それらの種目に大きな配点がなされている。それらに加え、得意な競技を1種目選択するようになっている。なお、高等学校終了時に受験する共通テストの結果も加味されるが、ここではその配点を明らかにしえなかった。なお、面接テストには配点などはかけられていない。

また、体育学部卒業後の進路についてであるが、男子体育学部において、以前は卒業生の進路は体育教師のみであったが、ここ5年間で、地域スポーツコーチ、スポーツマネジメント分野での就職もひろがりつつあるという。ところで、エジプトでは、体育教師となるための教員採用試験は実施されておらず、卒業生の大半は、中学高校の体育教員になる。コーチに関しては、各クラブに所属し、専属コーチとなる場合が増えてきているという。また、スポーツマネジメント分野であるが、エジプトでは、青年省管轄のユースセンターが、それぞれの都市に数多くも設置されており、そのセンターでの就職も増加の傾向にあるという。

また、女子体育学部の卒業後の進路も、男子体育学部と同様、中高の体育教師、クラブでのコーチ、ユースセンターなどでのマネジメントなどであった。

#### 5-4 各国のスポーツ教育指導者養成

以上、3カ国のスポーツ教育指導者養成事情を検討した。まず、養成機関そのものについてみれば、エジプトでは14校もの体育学部での養成が実施されており、ジョルダンでは4校での体育学部、シリアではわずか1校の体育学部と6つの2年制師範学校での養成と、その規模は、全く異なっていた。養成人数をみても、エジプトでは、14校のうちの1つのヘロワン大学だけでも、1学年1,000人を超える養成が実施される規模であることに対して、シリアでは体育学部での養成者数が、ようやく200名を超えようとしているという程度である。教官の資格の状況などを見ても、エジプトでは数多くの

体育学関係の博士号所有者が大学に勤務しており、また、ジョルダン大学でも教官のほとんどは博士号所有者であった。一方、シリアでは、上述の通り、まだまだ質の高い教官が不足している状況である。

次に、カリキュラムの相違という点でみると、授業科目に対して、シリアとエジプト<sup>58</sup>では全てが必修科目となっているが、ジョルダンでは必須科目・選択科目と分かれている。ジョルダンでは、一般教育が全教科の約4分の1を占めていることに対し、シリアやエジプトでは、そのほとんどが体育専門科目であった。なお、シリア、エジプト両国においても、体育専門以外の教科として「教育方法学」「教育原理」「アラビア語（国語）」、「外国語」「心理学概論」などは共通して設置されている。また、カリキュラムにおける理論と実技科目との比率という点で見ると、シリアでは実技が多く、師範学校で70%、ティシュリーン大学で57%ほど実技科目が占めているが、ジョルダンでは、6割以上が理論科目となっている。なお、エジプトのカリキュラムでは、理論・実技の判別ができなかったが、科目名から判断すると、実技が多いことが推察された。

また、シリア、ジョルダンにおいてはカリキュラムの中に「国家社会主義教育」などが組み込まれている。特にジョルダンに至っては、「イスラム」「アラブ」と名のつく科目が数多く存在し、学習指導要領と同様、「国家」、「宗教」への思想は、教育の中で、極めて重要視されていることが浮き彫りとなった。

また、入試科目の配点という点からみると、シリアでは、競技能力重視の傾向がみうけられた。エジプトではスポーツテストのような身体能力試験に高い配点がかけられていることから、専門競技能力というよりは、身体運動能力を重視しているといえる。一方、ジョルダン大学では、運動・競技に関する試験が一切行われず、筆記試験（タウジーヒ）の結果次第という、体育学部にしては珍しい試験内容であった。

以上の結果からみると、ジョルダンの体育学部は、体育専門能力以外の学術的な教養が、スポーツ教育指導者に期待されていること、また、高等教育機関においても、「アラブ」「イスラム」の重要性は強調しつづけられていることが明らかになった。またエジプトでは、体育・スポーツに対して、より専門的で高度な養成がなされていることがみてとれた。各競技分野ごと取得できる学位が存在するなど、体育・スポーツの専門性は、非常に高いレベルが目指されているようであった。また、シリアにおいては、体育・スポーツの学術的なレベルは、この2カ国にくらべると、発展の余地がまだまだあるという状況であった。

---

<sup>58</sup> なお、このたびの調査ではヘロワン大学女子体育学部のカリキュラムしか検討していないので、一般化することはできない。

## 6. シリアにおける体格、体力・運動能力調査

### 6-1 はじめに

本章では、シリアにおいて実施した、体格調査、及び体力・運動能力調査、運動の取り組みなどに関するアンケート調査から得られた結果を報告する。

### 6-2 調査の方法

#### 6-2-1 対象

##### (1) 体格、体力・運動能力調査、アンケート調査

首都ダマスカスの中等学校（以下、本章では中学校とする）男子生徒 213 名（12～14 歳・2000 年 4 月 1 日時点）、首都ダマスカスの女子体育師範学校生徒 67 名（18～21 歳・2000 年 4 月 1 日時点）

##### (2) 体格調査、アンケート調査

ダマスカス県カタナ地区のシリア人女性 143 名（17～59 歳）

#### 6-2-2 項目および方法

日本の文部省が実施している体力・運動能力テスト方法に基づいて（一部変更）以下の調査を実施した。

- (1) 体格：身長、体重を測定し、そこから体格指数「BMI (body mass index。体重 (kg) を身長 (m) の 2 乗で除した値、単位は  $\text{kg/m}^2$ )」をもとめた。
- (2) 体脂肪率：電子式体脂肪計により測定した（対象は上記の 6-2-1 (2) の女性のみ）。
- (3) 体力・運動能力：日本人との比較を考慮し、文部省体育局が実施している体力・運動能力調査を参考にし、以下の 5 項目を測定した（対象は上記の 6-2-1 (1) の中学校男子生徒及び女子体育師範学校生徒）。
  - ・長座体前屈：身体の柔軟性の指標（静的姿勢における関節の可能範囲にかかわる柔軟さを見る目的で、長座の姿勢から腰関節をできるだけ前屈させ、床から額までの距離をもって測定値とした。）
  - ・握力：静的筋力の指標
  - ・上体起こし：筋・筋持久力の指標
  - ・反復横とび：敏捷性の指標
  - ・立ち幅とび：筋パワー（瞬発力）の指標

### 6-2-3 測定値の取り扱い

シリア人の測定値および、アンケート調査結果は、平成12年12月～平成13年1月上旬に実施したものである。日本人の測定値は、文部省体育局発行平成11年度体力・運動能力調査報告書（平成12年10月発行）<sup>59</sup>のものである。

## 6-3 結果および考察

### 6-3-1 シリアの中学校男子生徒と女子体育師範学校生徒の形態的特徴および体力・運動能力的特徴

シリアの首都ダマスカスの中学校男子生徒213名（12～14歳・4月1日時点）、及びダマスカス女子体育師範学校生徒67名（18～21歳・4月1日時点）を対象に、体格、体力・運動能力テストを実施した。それぞれの結果を表6-1、6-3に示した。なお、表6-2、6-4は、同年代の日本人の数値である。

表6-1 シリア 中学校男子生徒の体格と体力・運動能力

	年齢 歳 (2000年4/1時)	12	13	14
	標本数	73	104	36
		平均値	平均値	平均値
体格	身長 (cm)	150.4	157.0	162.5
	体重 (kg)	40.8	49.4	56.3
	BMI (kg/m <sup>2</sup> )	17.9	19.9	21.3
体力・運動能力	長座体前屈 (cm)	27.8	27.7	26.8
	握力/左右平均 (kg)	24.9	29.2	34.0
	上体起こし (回)	20.2	21.0	21.1
	反復横とび (cm)	26.2	27.8	26.9
	立ち幅とび (cm)	119.5	132.6	136.7

表6-2 日本 中学校男子生徒の体格と体力・運動能力

	年齢 歳 (2000年4/1時)	12	13	14
	標本数	336～341	332～334	315～317
		平均値	平均値	平均値
体格	身長 (cm)	152.8	160.7	165.8
	体重 (kg)	44.0	48.4	53.7
	BMI (kg/m <sup>2</sup> )	18.8	18.7	19.5
体力・運動能力	長座体前屈 (cm)	37.6	41.5	43.7
	握力/左右平均 (kg)	25.0	30.8	35.4
	上体起こし (回)	22.4	24.8	26.4
	反復横とび (cm)	44.1	47.9	49.1
	立ち幅とび (cm)	184.0	200.7	209.8

<sup>59</sup> 文部省体育局 (2000)

表 6-3 シリア 女子体育師範学校生徒の体格と体力・運動能力

	年齢 歳 (2000 年 4/1 時)	18 歳	19 歳	20~21 歳
	標本数	14~15	21	31
		平均値	平均値	平均値
体格	身長 (cm)	161.7	161.4	161.0
	体重 (kg)	59.8	59.5	59.8
	BMI (kg/m <sup>2</sup> )	22.9	22.8	23.1
体力・運動能力	長座体前屈 (cm)	40.9	36.9	35.2
	握力/左右平均 (kg)	30.9	31.1	32.1
	上体起こし (回)	19.9	21.6	23.6
	反復横とび (cm)	27.6	28.9	30.9
	立ち幅とび (cm)	136.1	133.6	144.1

表 6-4 日本 運動部・スポーツクラブに所属している女子の体格と体力・運動能力

	年齢 歳 (2000 年 4/1 時)	18 歳	19 歳	20~24 歳
	標本数	199~215	204~216	426-458
		平均値	平均値	平均値
体格	身長 (cm)	158.5	159.4	159.3
	体重 (kg)	52.3	52.6	51.1
	BMI (kg/m <sup>2</sup> )	20.8	20.7	20.1
体力・運動能力	長座体前屈 (cm)	46.4	46.5	47.2
	握力/左右平均 (kg)	28.2	28.9	30.7
	上体起こし (回)	20.0	20.5	19.8
	反復横とび (cm)	44.3	45.7	44.8
	立ち幅とび (cm)	175.2	174.9	176.7

出所：表 6-2、6-4 の日本人の測定値は、文部省体育局（2000）（2000 年 10 月発行）による。

以下の図 6-1、図 6-2 は、日本人の測定値を 100 とした場合の、シリア人の測定値を示したものである。

図6-1 日本人中学生を100とした場合のシリア人中学生の体格、体力・運動能力（男子）

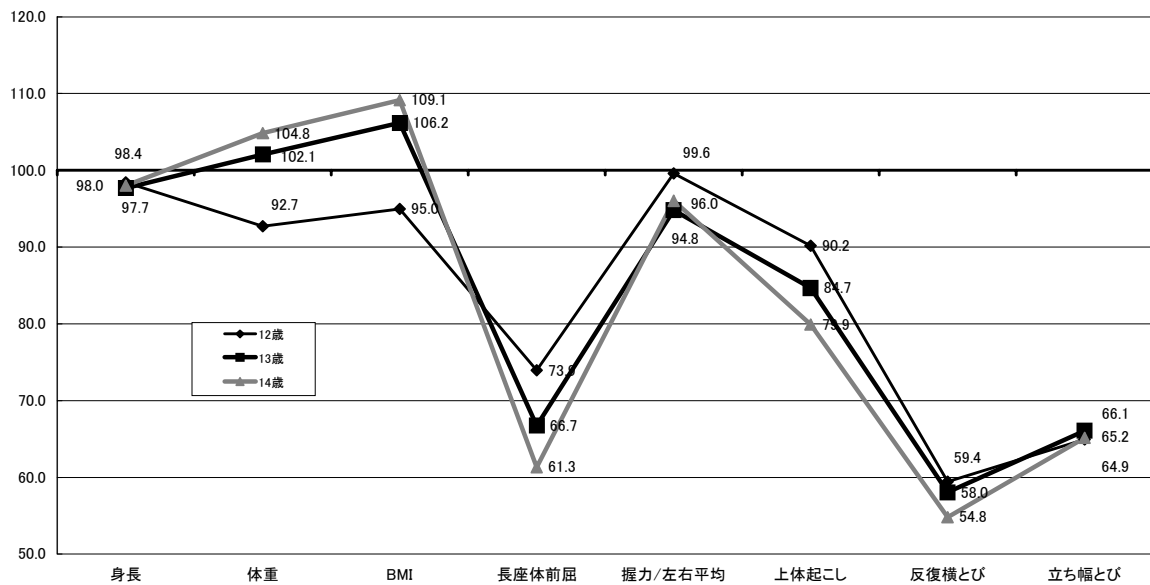
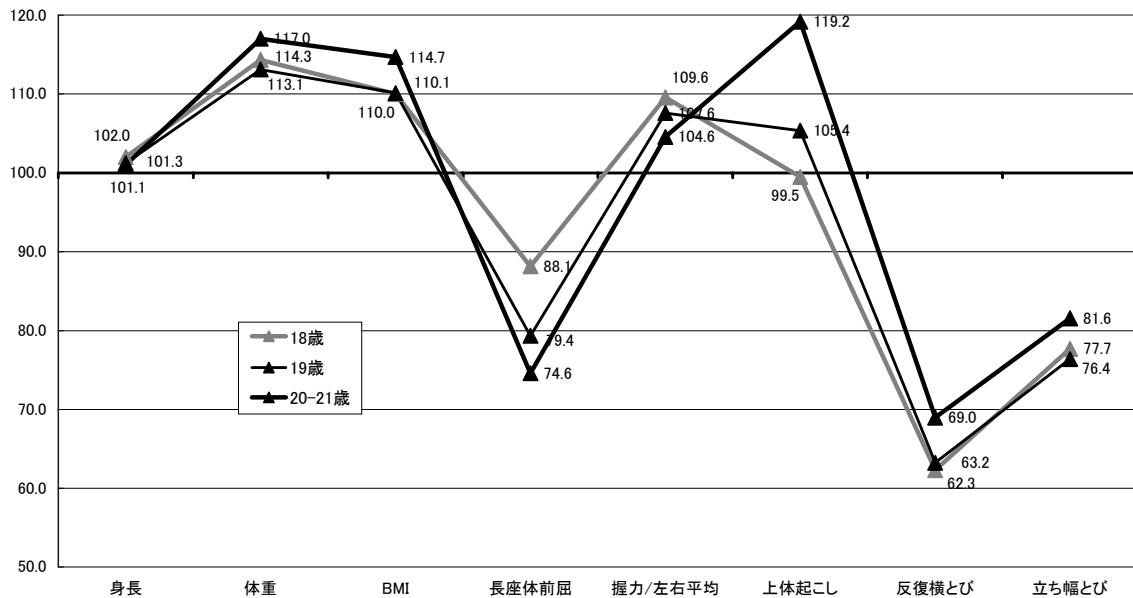


図6-2 日本人の運動部の女子生徒を100とした場合のシリア人女子体育師範学校生徒の体格、体力・運動能力



### (1) 中学校男子生徒と女子体育師範学校生徒の体格

まず、シリア人と日本人の身長と体重の増加を比較した場合、12歳から13歳にかけては身長でシリア人が6.6cm、日本人が7.9cm伸び、体重ではシリア人が8.6kg、日本人が4.4kg増えた。13歳から14歳にかけては、シリア人が5.5cm、日本人が7.9cm伸び、体重ではシリア人が6.9kg、日本人が5.3kg増えていた。これらのことから、シリア人、日本人ともに、この時期が発育急進期であると考えられる。また、この時期シリア人は、日本人に比べると、体重の増加の度合いが身長増加の度合いと比べて大きかった。一方、女子生徒の場合、身長、体重ともにシリア人の方が日本人より高い値を示し、BMIもシリア人のほうが高かった。なお、BMIはシリア人女子の方が標準値に近い数値であった。

### (2) 中学校男子生徒と女子体育師範学校生徒の体力・運動能力的特徴

- ・長座体前屈：身体の柔軟性の指標である長座体前屈は、男子生徒、女子生徒ともに、3群とも日本人の方がシリア人より、顕著に良い値を示した。特に中学校男子生徒では、加齢とともに、その差が広がった。
- ・握力：静的筋力の指標である握力は、中学校男子生徒で3群とも日本人の方がシリア人より、高い値を示した。しかし、3群の平均差は1kgと僅かなものであった。女子では、3群ともシリア人の方が日本人より良い値を示した。その差は平均2.1kgであった。
- ・上体起こし：動的筋力・筋持久力の指標である上体起こしは、中学校男子生徒で3群とも日本人の方がシリア人より、高い値を示した。日本人男子生徒は、年齢が上がるにつれて、顕著な向上を示しているが、シリア人男子生徒は、12～14歳ではほぼ横ばいの状態がみうけられた。また、女子生徒では、18歳群以外がシリア人の方が日本人より高い値を示した。
- ・反復横とび：敏捷性の指標である反復横とびは、中学校男子生徒で3群とも日本人の方がシリア人より、顕著に良い値を示し、測定値に20回前後の差がついた。また、女子においても、3群とも日本人の方がシリア人より顕著に良い値を示した。
- ・立ち幅とび：筋パワー（瞬発力）および跳能力の指標である立ち幅とびは、中学校男子生徒、女子生徒ともに、3群とも日本人の方が、顕著に良い値を示した。

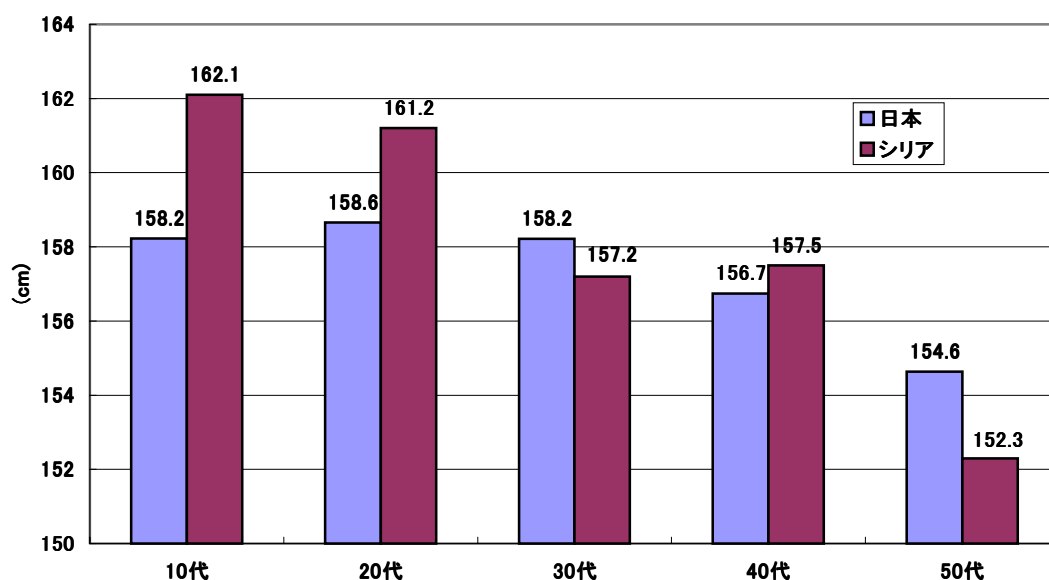
これらの結果を総合してみると、握力、上体起こしなどの筋力系の運動能力については日本人とシリア人の間には極端な差はみられなかったが、柔軟性を必要とする長座体前屈や、神経系の能力を必要とする反復横とびや立ち幅跳びには、かなり大きな差がみられた。このことは、日本人とシリア人の運動経験の差によって生じた部分が大きいのではないかと推測することができると同時に、改めて体育教育の必要性を示唆しているものではなかろうか。



### 6-3-2 シリア人女性の形態的特徴

ダマスカス県カタナ地区の10代(17歳以上)～50代までの計143名を対象に、身長、体重、体脂肪を測定した。身長、体重、BMIについては、シリア人の測定値と、同年代の日本人女性の測定値を比較した形で、図6-3～6-5に示した。体脂肪の数値については、日本人女性の標準測定値がなかったため、シリア人女性の測定値のみ図6-6に示した。なお、シリア人女性の標本数については、10代33名、20代44名、30代26名、40代25名、50代15名から測定した値である。日本人の測定値は6-2-3で上述した通り、文部省体育局発行平成11年度体力・運動能力調査報告書(2000年10月発行)のデータによるものである<sup>60</sup>。

図6-3 日本人女性・シリア人女性の各年代ごとの平均身長



<sup>60</sup> なお、文部省体育局発行の体力・運動能力調査報告書では、10代は各年齢ごとに平均測定値が出されているので、ここでは17～19歳の平均測定値を10代の平均値とした。また、20代以降は5歳刻みで、それぞれ平均測定値が出されており、ここではそれらを10歳ごとのデータに算出しなおした。

図 6-4 日本人女性・シリア人女性の各年代ごとの平均体重

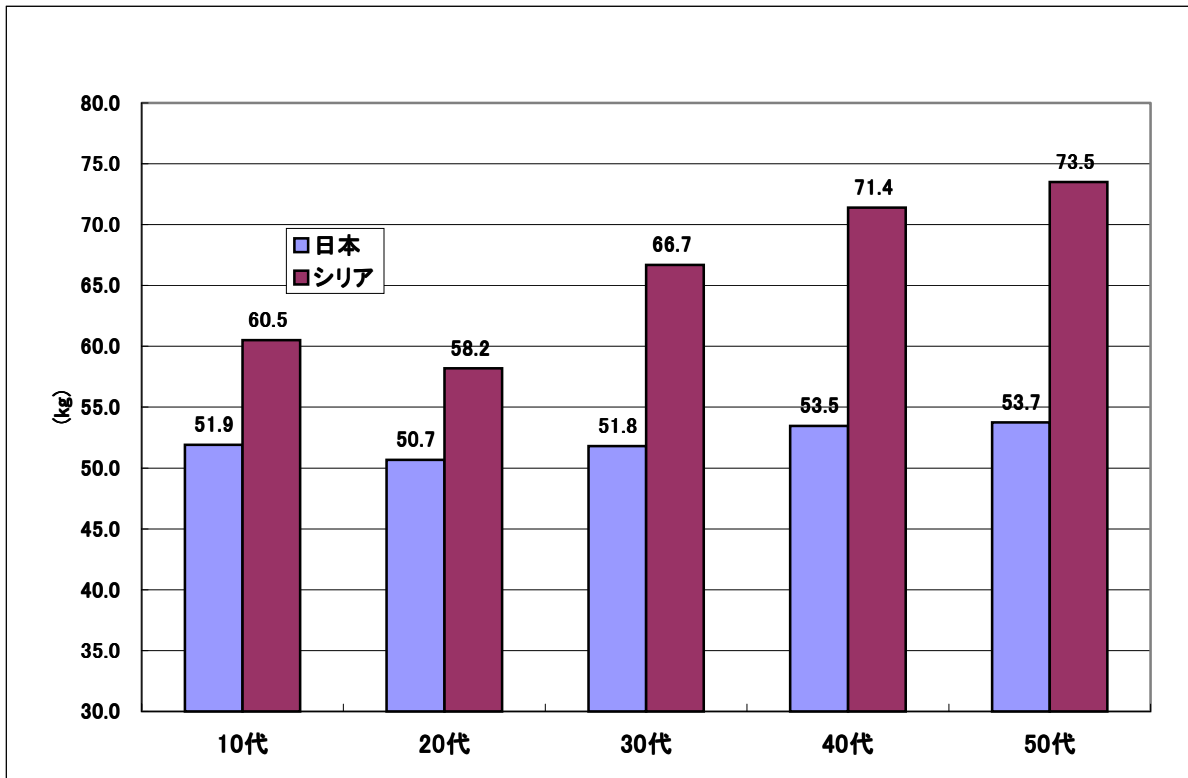


図 6-5 日本人女性・シリア人女性の各年代ごとの平均 BMI

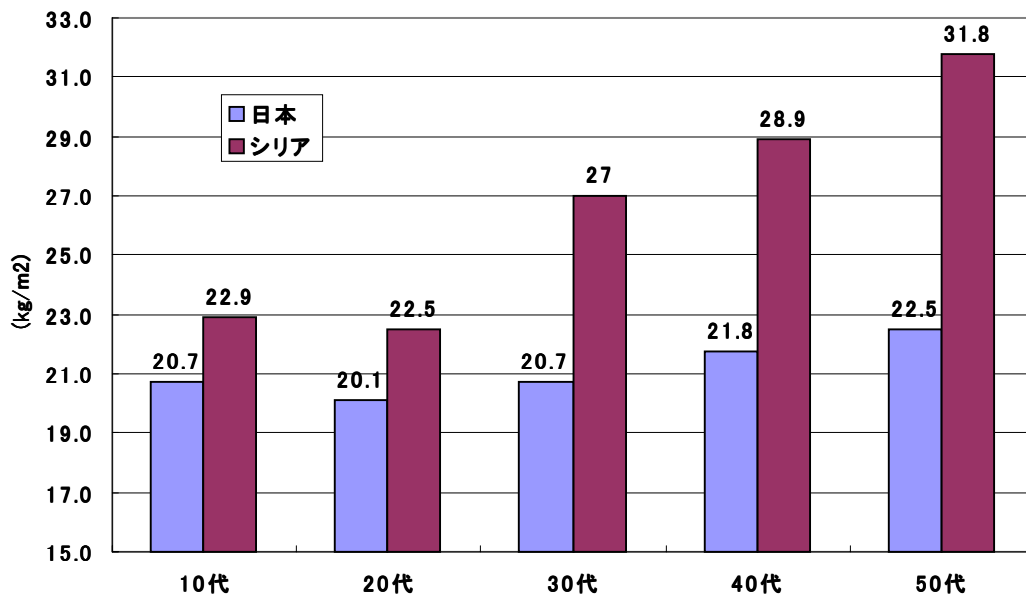
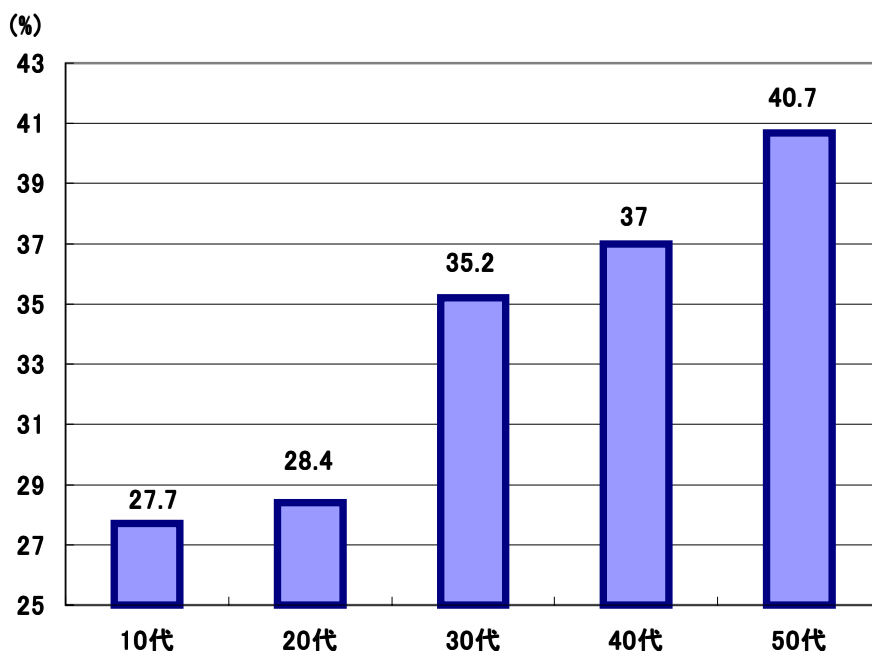


図 6-6 シリア人女性の各年代ごとの平均体脂肪率



シリア人女性の体重に関しては、加齢とともに増加する傾向にある。体重は 20 代から 30 代にかけて急な増加がみられ、その後も増加する傾向にある。10 代から 50 代までの体重の増加は 13kg である。対して、日本人女性の 10 代から 50 代にかけての体重増加は 1.8kg にとどまっていることを考えれば、シリア人女性の体重増加がいかに激しいかが理解できる。また、BMI 値をみてみると、シリア人女性は 10 代、20 代では基準数値 22 に近いが、30 代から急激に上昇し、50 代では 31.8 にまで至っている。対して、日本人女性は、10 代で 20.7、20 代で 20.1、そこから年齢が上がるにつれて BMI の値もわずかに増加し、50 代では 22.5 となっている。シリア人女性の BMI 値は大変高く、疾病の予備軍的要素が強い域まで達している可能性があると考えられる。

体脂肪率は、10 代から 20 代にかけては、僅かな上昇であるが 20 代から 30 代にかけて数値が急速に上昇しており、50 代では、40.7%となっている。明らかに肥満の域に達している中年女性がシリアには相当数存在することが推測できる。

#### 6-4 アンケート調査について

体力・運動能力テストの対象となった、中学校男子生徒 213 名、女子体育師範学校生徒 67 名、及び体格調査を実施したシリア人女性 143 名に対して、運動の取り組みなどに対するアンケート調査を実施した。ここでは、以下の 5 点についての質問をした。

- ① スポーツ・運動クラブへの所属の有無
- ② 1 週間のスポーツ運動頻度

- ③ 1日のスポーツ・運動時間
- ④ 朝食の摂取状況
- ⑤ 1日の睡眠時間

#### 6-4-1 中学校男子生徒の結果

12歳男子については74名から、13歳男子については104名から、14歳男子については、36名から回収した。その結果については、以下の図6-7~6-11に示した。

図6-7 スポーツ・運動クラブへの所属の有無（中学校男子生徒）

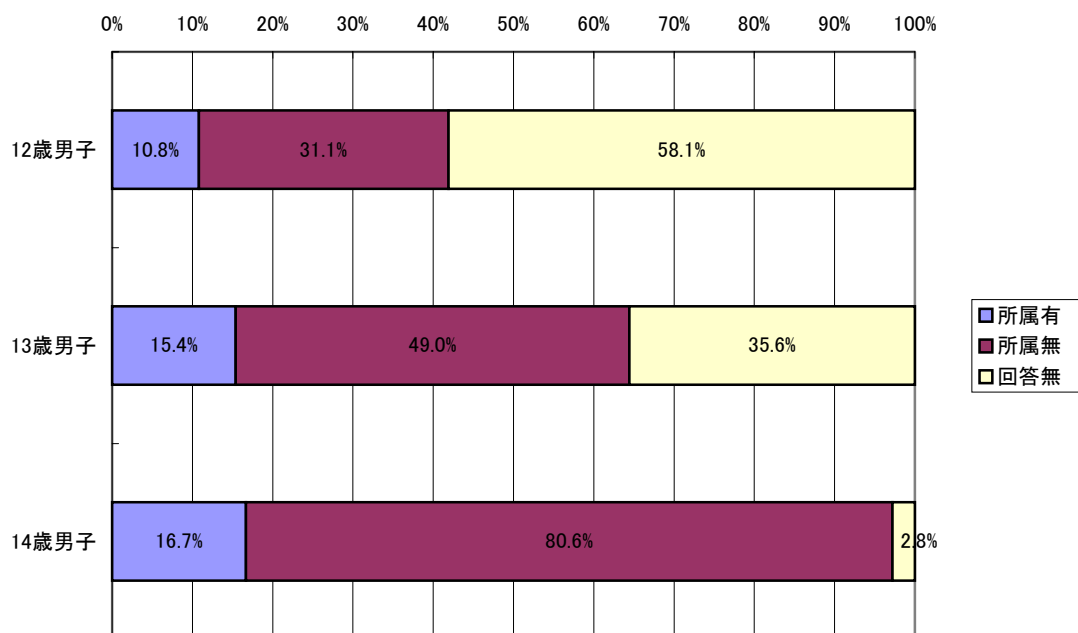


図6-8 1週間のスポーツ運動頻度（中学校男子生徒）

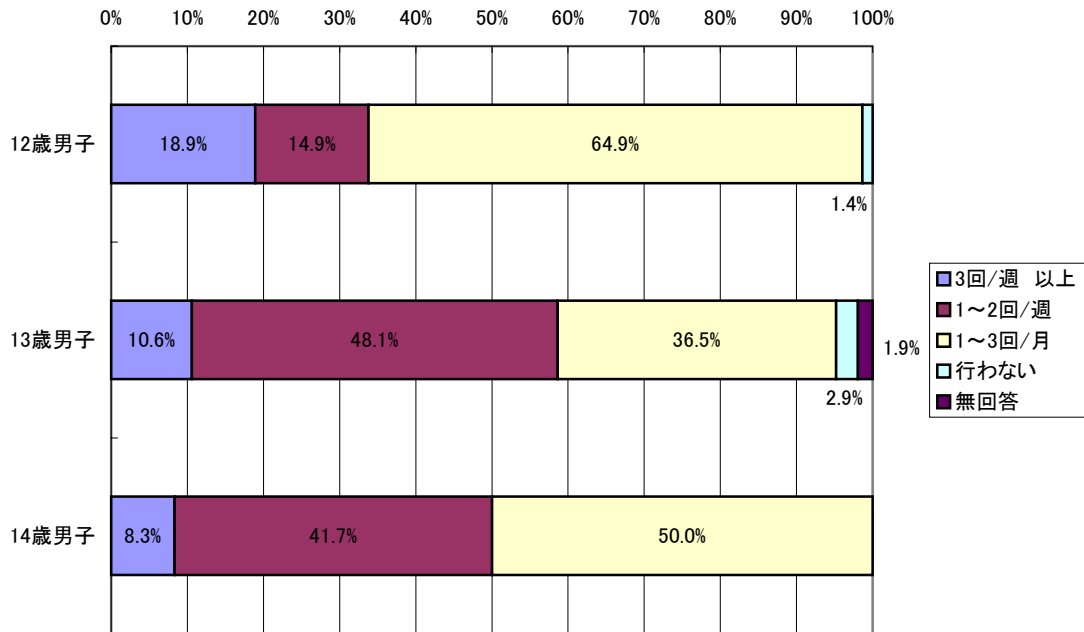


図6-9 1日のスポーツ・運動時間（中学校男子生徒）

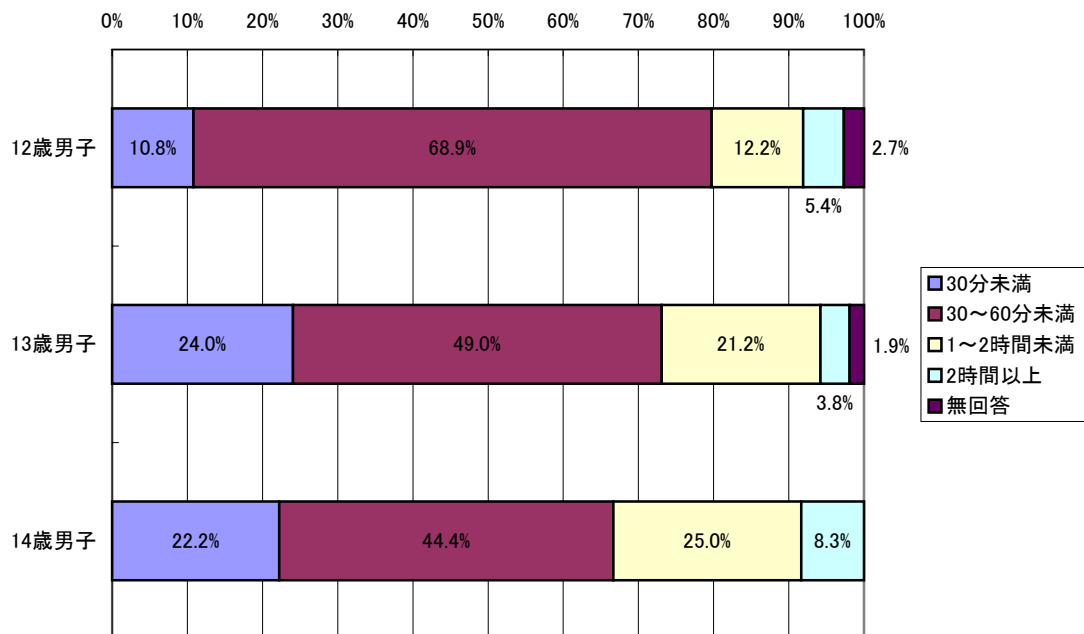


図6-10 毎日朝食はとりますか？（中学校男子生徒）

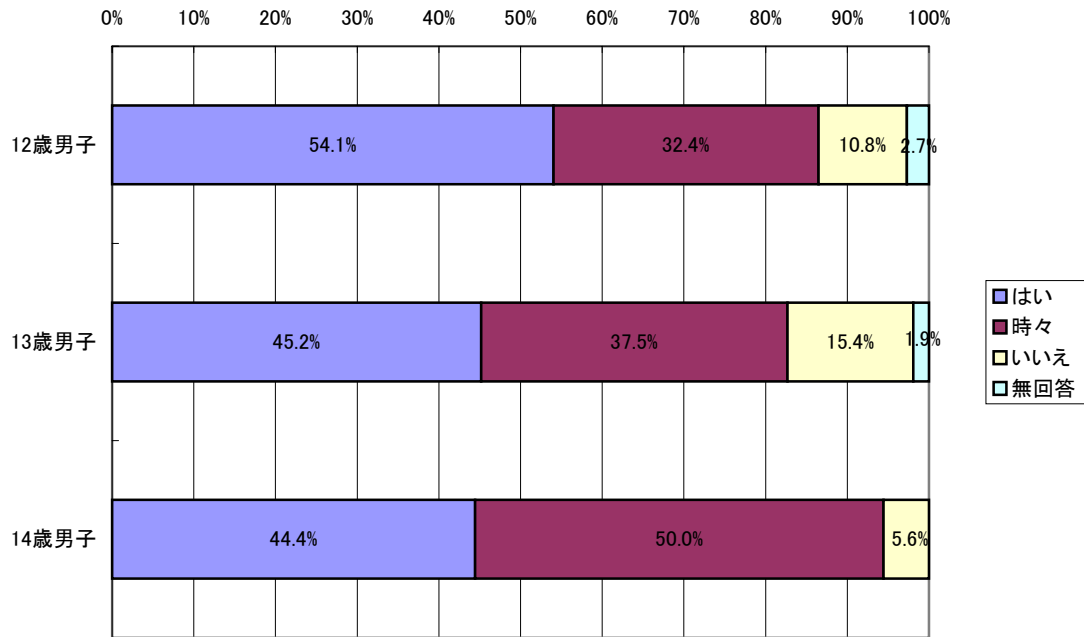
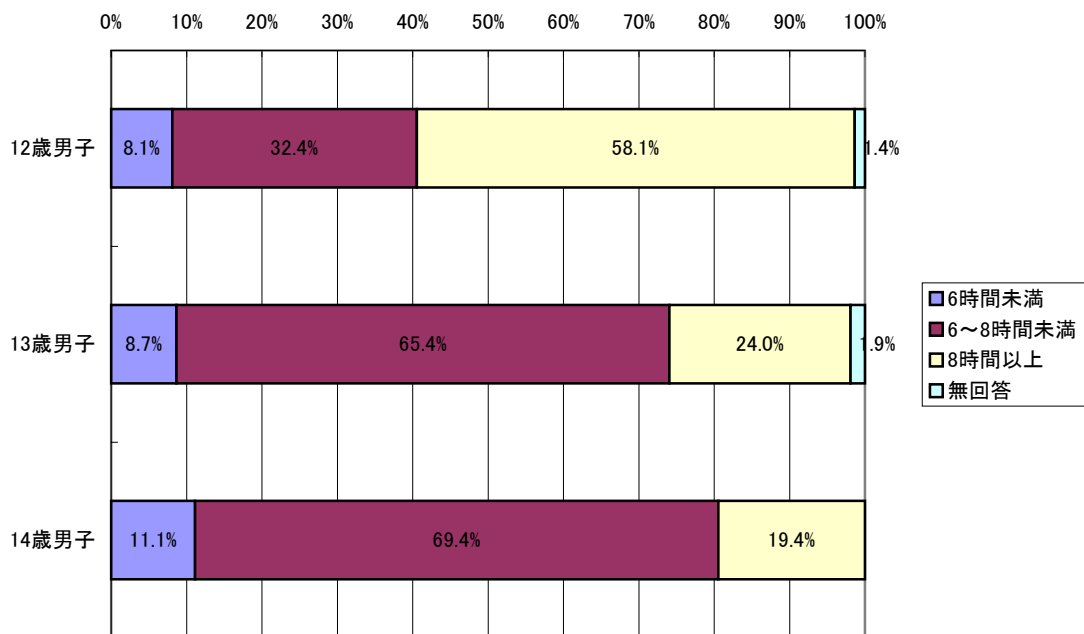


図6-11 1日の睡眠時間（中学校男子生徒）



スポーツクラブへの所属は、213 名中 30 名という状況であった。なお、この問いに関しては無回答が多く見受けられたが、日本のように学校での部活動がないシリアの中学生には、「スポーツクラブへの所属」という概念そのものが理解しがたいものであったのではないかと考えられる。運動・スポーツの頻度は、週 1～2 回、月に 1～3 回という答えが多かった。朝食に関しては、毎日摂っている人が、全体の 48%を占めていた。睡眠時間については、学年が上がるにつれて少なくなる傾向が見られた。

#### 6-4-2 女子体育師範学校生徒の結果

女子体育師範学校生徒では、18 歳で 15 名、19 歳で 21 名、20～21 歳で 31 名から回収した。その結果については、以下の図 6-12～6-16 に示した。

図 6-12 スポーツ・運動クラブへの所属の有無（女子体育師範学校生徒）

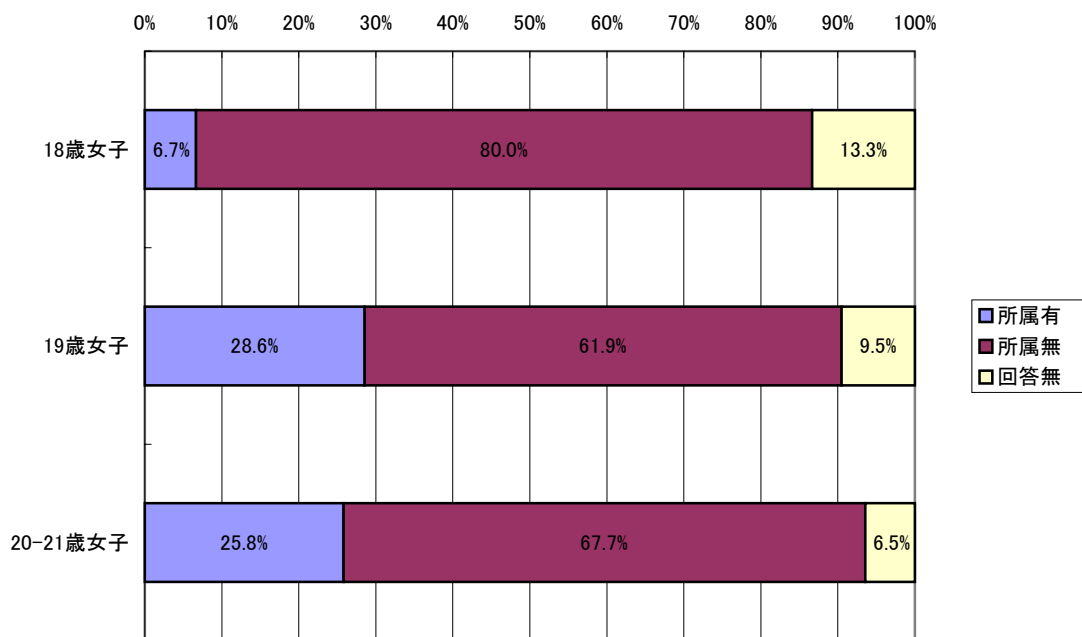


図 6-13 1週間のスポーツ運動頻度（女子体育師範学校生徒）

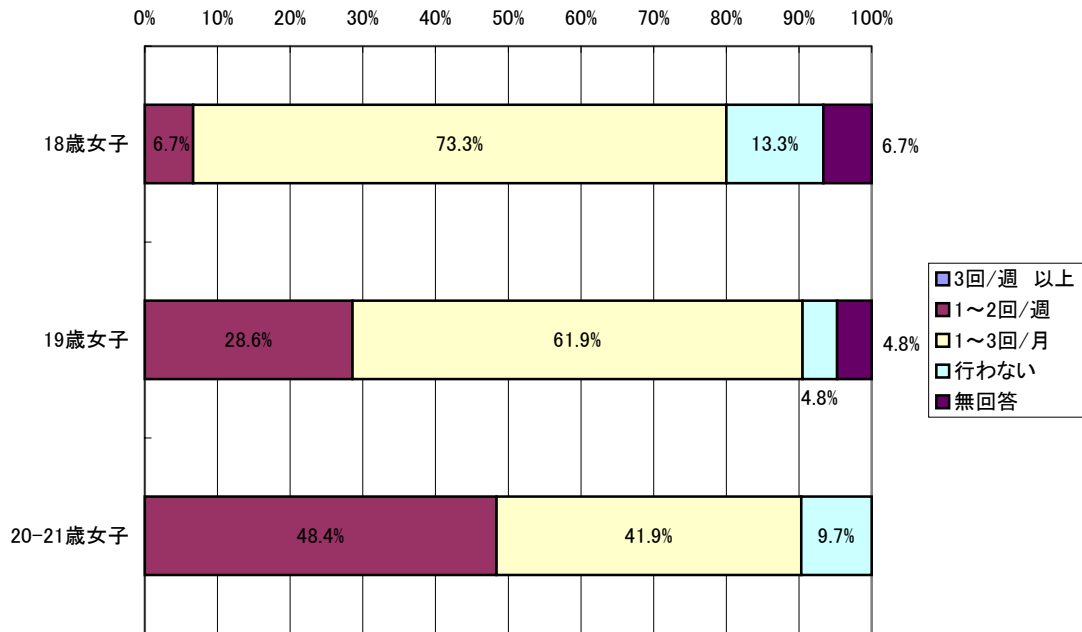


図 6-14 1日のスポーツ・運動時間（女子体育師範学校生徒）

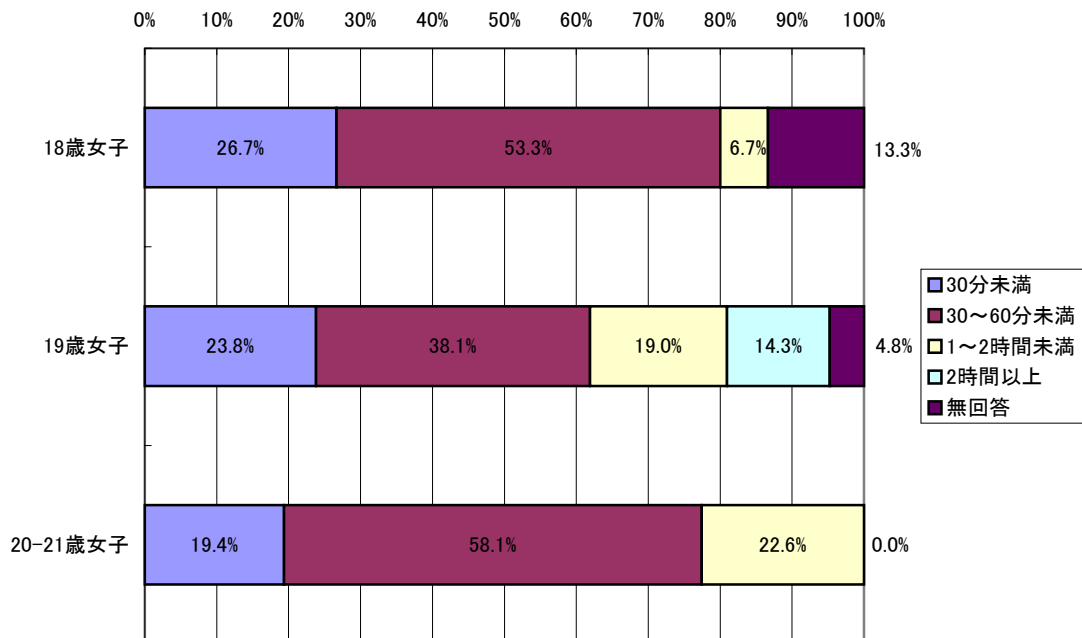




図6-15 毎日朝食はとりますか？（女子体育師範学校生徒）

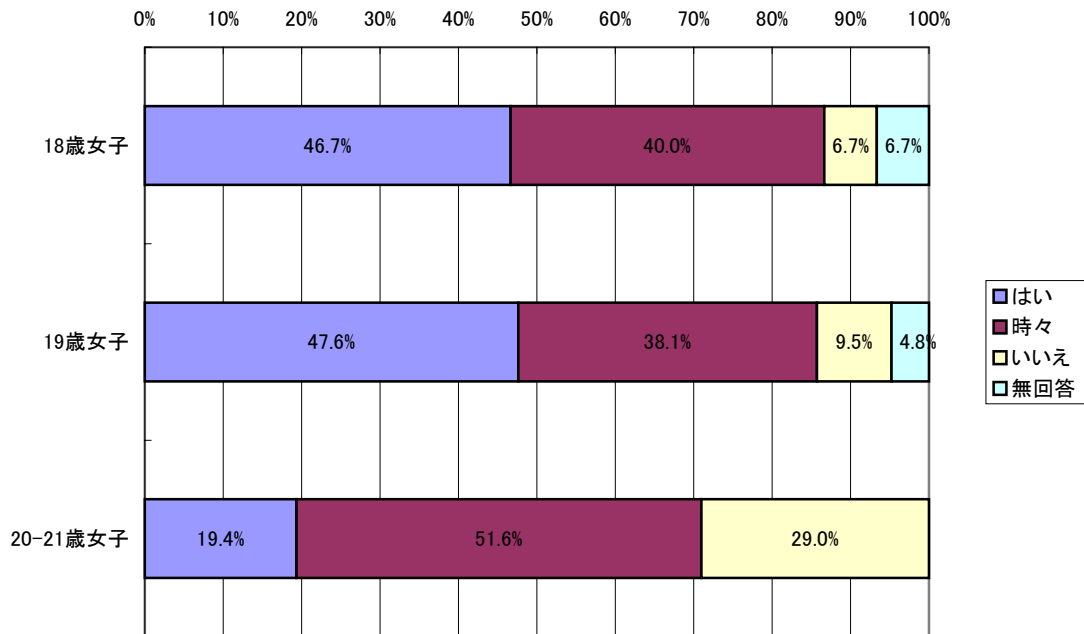
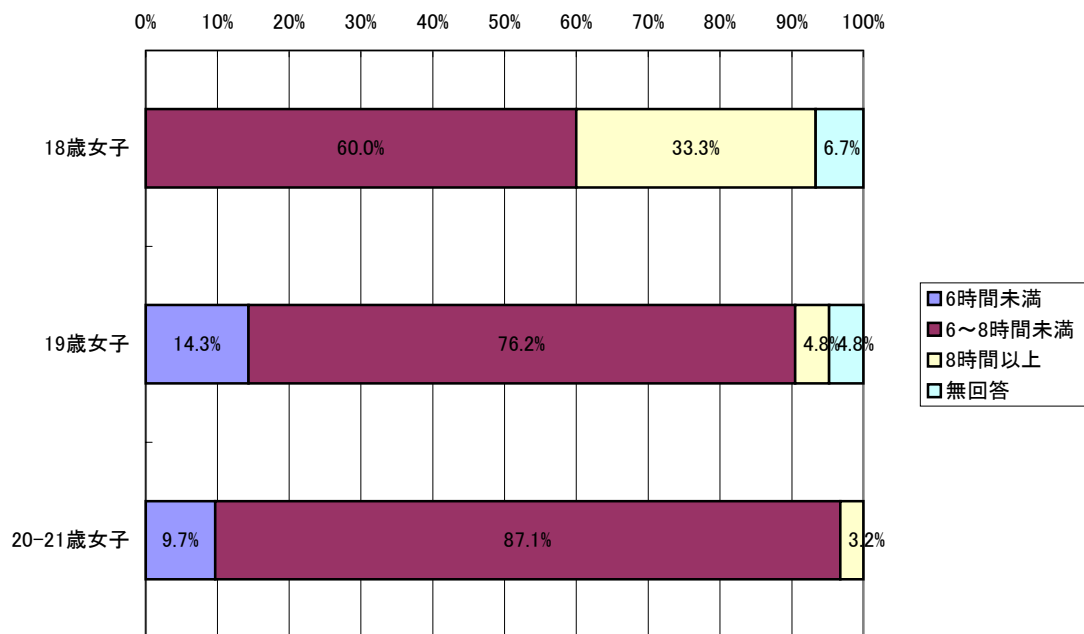


図6-16 1日の睡眠時間（女子体育師範学校生徒）



体育・スポーツを専門とする機関であるにもかかわらず、スポーツクラブに所属している人は、全体の22%しかなかった。運動・スポーツの頻度についても、月に1～3回という答えが、過半数(55%)を占めた。なお、この質問では、体育師範学校内で実施される運動系の授業のことは例外としてカウントさせた。朝食の摂取状況においても、「時々」が最も多い答えであった。

### 6-4-3 シリア人女性 10代～50代の結果

ダマスカス県カタナ地区に住む女性については、10代が33名、20代が44名、30代が26名、40代が25名、50代が15名からそれぞれ回収した。その結果については、以下の図6-17～6-21に示した。

図6-17 スポーツ・運動クラブへの所属の有無（シリア人女性）

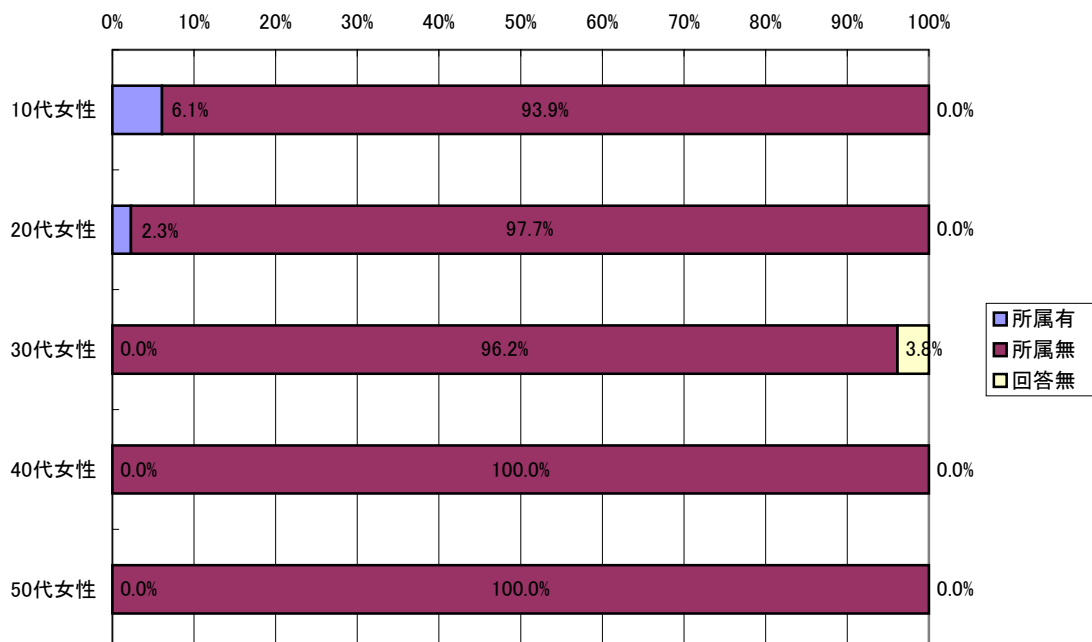


図6-18 1週間のスポーツ運動頻度（シリア人女性）

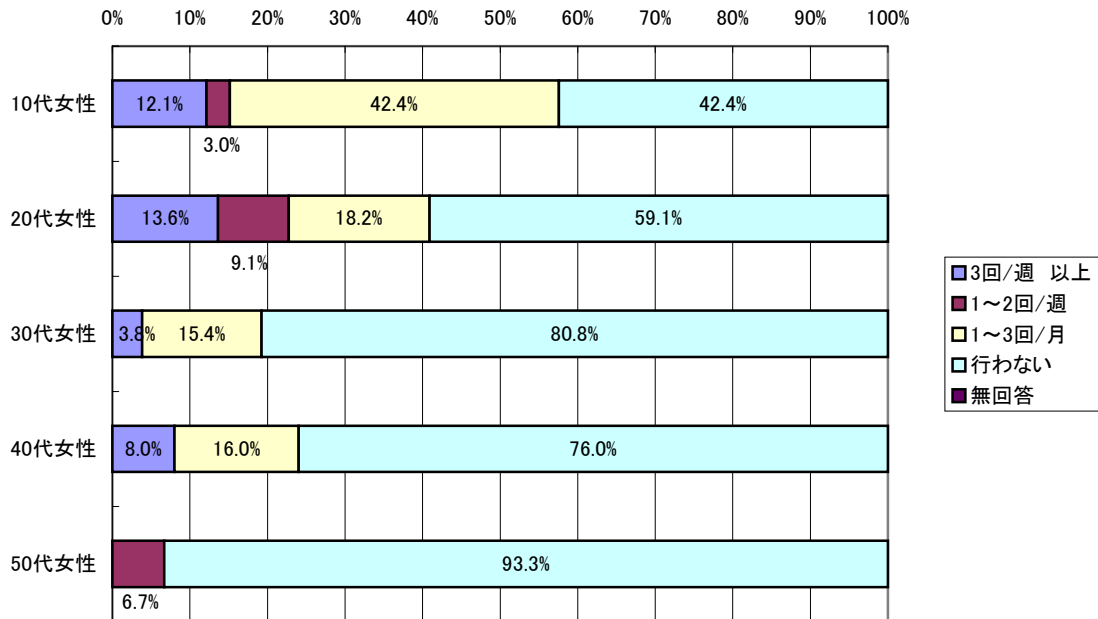


図6-19 1日のスポーツ・運動時間（シリア人女性）

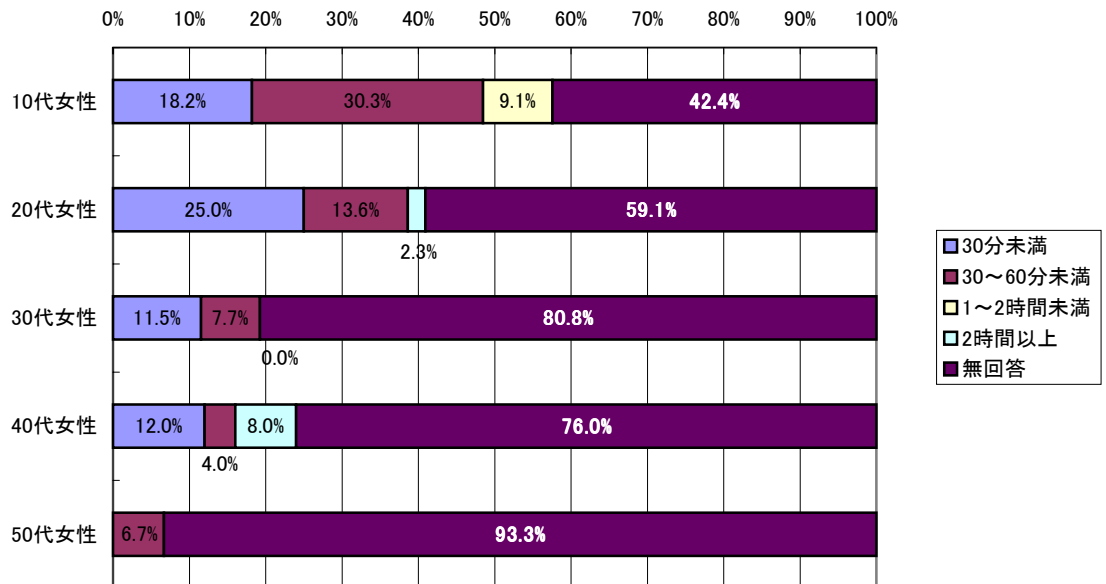


図6-20 毎日朝食はとりますか？（シリア人女性）

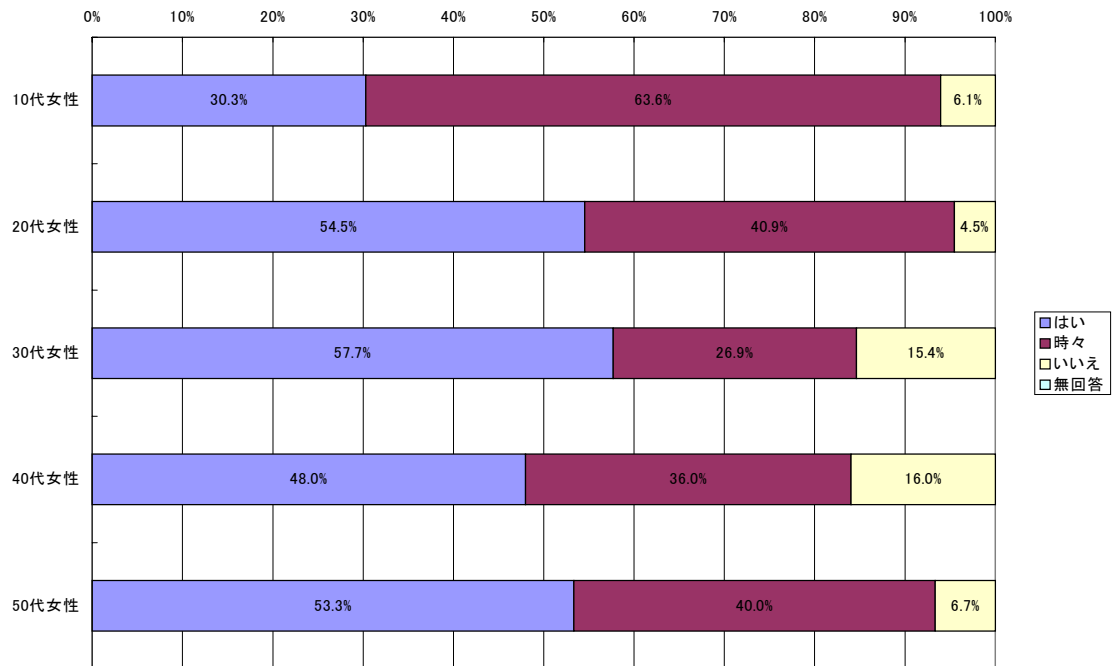
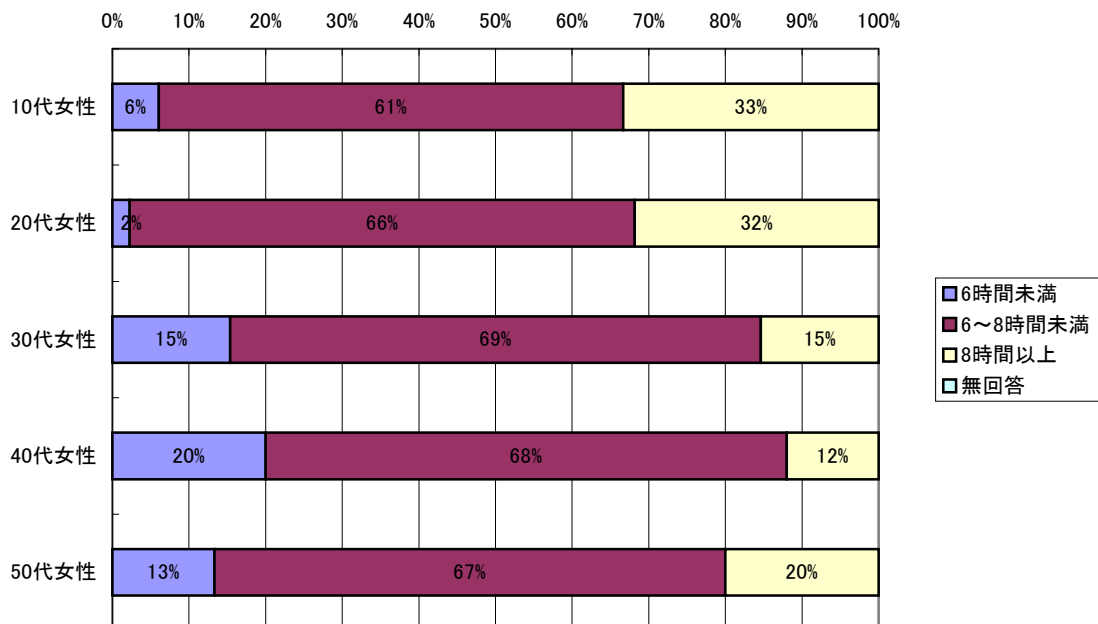


図6-21 1日の睡眠時間（シリア人女性）



スポーツクラブの所属に関しては、約 98%の人が所属しておらず、特に 30 代以降は、無回答の 2 名を除けば、全員が所属していなかった。それに伴い、スポーツ・運動頻度も少なく、「行わない」と答えた人が、約 66%であった。特に 30 代以降でみると、「行わない」と答えた人は 8 割を超えていた。また、朝食の摂取状況についても、「時々」を 4 割以上の人が答えていた。既婚者が多いと思われる、30、40、50 代では、朝食を作り食べているものと考えていたが毎日朝食を摂らない場合が予想以上に多かった。これらの結果から、シリア人女性は、スポーツ・運動、及び健康に対する認識は決して高くはない傾向にあるのではないかという推測が立てられた。また、体格調査をあわせて考えてみても、体脂肪が急激に高くなる 30 代以降の女性は、運動・スポーツに取り組む時間や頻度も極めて少ないという傾向が見受けられた。

## 6-5 体格、体力・運動能力調査の今後の課題

### 6-5-1 体格調査における課題

(1) 中学校男子生徒の体重は、思春期発育スパート期の急激な増加を示したが、それらは、除脂肪体重の増加なのか、体脂肪の増加なのかが大きな問題になるところである。よって今後の課題としては、体脂肪量の測定を追加することが望ましいと思われる。また、今回の調査では、思春期の女子の測定を行っていないため、今後の課題として、思春期発育スパート期の増加を調べることにより、さらに深い比較ができると考える。

(2) 体格指数を表す BMI については、「さまざまな疾患による死亡率は、BMI が  $22\text{kg}/\text{m}^2$  程度の人達において最も低いことがいくつかの疫学的調査によって明らかにされている。そして BMI がこれよりも低い値を示す痩身者では、消化器系や肺などの疾患が主因で死亡する割合が高く、逆に  $22\text{kg}/\text{m}^2$  よりも高くなればなるほど動脈硬化性疾患による死亡率の増加が観察される」<sup>61</sup>と報告されている。今回の調査結果から、シリア人の成人女性、特に 30 代以降の女性の多くは、 $22\text{kg}/\text{m}^2$  を超えている場合が多いのではないかという予測をたてることができるが、BMI の数値だけではなく、疾患の状況についても、検討する必要があると思われる。また、成人男性の体格についても、注目する必要があるだろう。

### 6-5-2 体力・運動能力調査における課題

(1) 反復横とびの測定値では、中学校男子生徒、体育師範学校女子生徒ともに、日本での測定値と比べて顕著な差がみられたが、次の 2 点を考慮する必要がある。1 点目は、反復横とびに慣れていないため、身体の調整力を上手く機能させることができず、敏捷性を計測するに至らなかったのではないかということ。2 点目は、測定場所および靴の問題である。シリアでは、体育の授業

---

<sup>61</sup> トレーニング科学研究会編 (1996) p. 293.

が校庭で行われるが、その校庭は土ではなく、タイルであるため、反復横とび実施時に、多少滑りが生じることが考えられる。さらに、道具としての靴の機能が良くないことも一因であると思われる。対して、日本では反復横とび等の動きに慣れている生徒たちがほとんどであること、そして日本では当テストは土のグラウンドか体育館で実施されるので、滑って測定に支障をきたすことが少なく、道具としての靴の機能も悪くないことが考えられる。今後は、これらのことを考慮して反復横とびを測定するか、もしくは、代替の種目を検討する必要がある。

(2) 体力・運動能力調査については、全身持久力の目安となる 12 分間走および 20m シャトルラン、50m 走、ボール投げを、場所及び測定時間の関係で実施しなかった。今後、これらを含め調査種目の選定に関してもさらなる検討が必要である。

## 6-6 まとめ

日本においては、文部省が昭和 39 年以来、体力・運動能力調査を実施し基礎資料として広く活用している。今回、我々が体力・運動能力調査等を実施したシリアでは単発的に類似の調査が行われようとしていたことが明らかになった。最近では 1990 年に全国 14 県において、各小学・中学・高校において実施計画が立てられた。数校では実施されたようであるが、しかし、資料回収および分析は、行っていないことも明らかになった<sup>62</sup>。ただ、体力・運動能力調査等に少なからず関心を持っている様子は窺えた。

また、シリアでは、これまで一部の体育・スポーツの分野の協力隊員により、体力・運動能力テストが実施されてきた。しかし、サンプル数が少なく、データが残っていないのが現状であった。これまで、シリアへ赴任した体育・スポーツ分野の協力隊員の報告書などから、「視覚的に見て太った人が多い」「運動・スポーツを定期的に実施していない」等、様々な憶測に基づくコメントがなされてきた。サンプル数や地域的な偏りを差し引いたとしても、今回の調査でこれらのことを、幾分か裏付けることができたと思われる。今回の調査を基にしたさらなるデータ蓄積が望まれる。特に今回の調査結果では、成人女性に注目すると、シリアは生活習慣病予備軍的な位置に属する国である可能性が見受けられたが、今後の当該国における女性に対する身体教育分野の協力の必要性が、より浮き彫りになったといえるであろう。

追記：なお、本章は JOC（日本オリンピック委員会）プロジェクト研究員の久木留毅氏と共同で作成した。現地での体格、体力・運動能力調査や質問紙調査、及びそのデータ処理、執筆などについては、久木留毅氏の指揮の下に実施されたものである。同氏には深く感謝したい。

---

<sup>62</sup> 2000 年 12 月 10 日、シリア教育省体育局長バハレート・ダワード氏に対して実施したインタビュー調査による。

## 7. 中近東・イスラム社会における身体教育の特質と国際協力の課題

### 7-1 女性のスポーツの傾向と課題

これらの国々において、スポーツ振興を考える際、やはりまずは“女性”問題がクローズアップされてくる。4章、5章において、学校体育やスポーツ教育指導者養成における男女差について検討した。また、6章では、シリアの女性が運動にほとんど関わっていないという状況や、成人女性には生活習慣病予備軍が数多くいる可能性を指摘した。

本節では、これらの国々において女性のスポーツがどのように考えられているのか、どのように振興されようとしており、何が課題と考えられているのかといった点について、各国の体育関係行政官らへのインタビューなどによって得られた情報を基に検討する。

シリアの教育省副大臣は、女性のスポーツの課題について、次の通りに指摘した<sup>63</sup>。

「まず1つ目には社会的な見地からみて、人々は女の子を外に出して、スポーツをさせないという風潮があります。次に宗教的な理由で、女性がスポーツウェアを着られないという問題もあります。スポーツウェアのほとんどが肌を露出したりするものですから。また3点目としてはシリアだけではなく普遍的な問題だと思うのですが、結婚後は、妊娠などでスポーツが続けられなくなる状況があります。そして最後に、金銭の問題もあるでしょう。つまりは、女性がスポーツをするのに良い場所がないということです。もし、予算が十分にあるならば、男性専用の運動場所、女性専用の運動場所、そして、男女が共用できる運動場所の3つをつくらせていきたいのです。アラブの国々では、このようにスポーツセンターをつくるのが重要です。今、そのようなセンターがないことが問題です。結局は資金不足です。」

そして、女性のスポーツが振興されるためには、まずは、社会的な理解とコンセンサスが得られる必要があること、また、両親が女性を安心してスポーツ活動に参加させることのできるような適切なコンディションをつくらせていくことが重要だと述べている。そのためには、まず、女性がスポーツに取り組むことが、教育的にも、健康的にもとても良いことであるといった情報が適した形で広まるよう、取り組まなければならないと課題を述べた。

また、シリアオリンピック委員会事務局長<sup>64</sup>によれば、近年シリア総合スポーツ連盟に、女性スポーツグループが設立された。同氏によれば、特に、水泳や、体操、陸上競技などの女性スポーツに力を入れており、青年海外協力隊員にも大きな期待を寄せているという。以前、水泳に取り組む女性は皆無に近かったが、現在では、水泳連盟に所属する子どもたちの4割近くが女子であるという。同氏は、女性のスポーツの課題として、「社会風潮」を挙げた。選手を取り巻く環境、特に両親からの理解がなかなか得られないとのことであった。両親も、子ども（女子）が幼い頃は、積極的にスポーツに参加させようとするが、ある程度の年齢になるとスポーツをさせないようになるという。同氏は、女

<sup>63</sup> 2001年1月14日に、シリア教育省副大臣カマル・ターハ氏に対して行ったインタビューによる。

<sup>64</sup> 2000年12月12日、シリアオリンピック委員会事務局長モウラセム・ゴウトク氏に対してインタビューを実施した。

性が年齢を経てもスポーツを続けられるような状況をつくりたいと述べた。また、これら女性のスポーツ発展のため、現在では、シリアのスポーツ連盟の多くの局長を女性が務めるケースが増えてきている。

ジョルダンのオリンピック委員会のチーフである、ハムザ氏<sup>65</sup>は、これまで、女性がスポーツをすることが社会的に許されないという風潮があったと述べた。同氏によれば、未だに男性スポーツ人口が女性のそれよりはるかに多い状況ではあるが、しかし、今日、女性が取り組めるスポーツも増加の傾向にあり、特に、ジョルダンの新しい傾向として、空手、テコンドー、柔道などの種目に取り組む女性が増えてきているという。また、ジョルダンにおいても、シリアと同じく、近年、オリンピック委員会に女性スポーツ課が新設されたばかりである。その女性スポーツ課のスタッフである、ナビーラ氏<sup>66</sup>によれば、近年ジョルダンの女性スポーツはかなり良い方向に進みつつあるという。同氏によれば、近隣アラブ諸国の女性スポーツと比べてみて、ジョルダンは、シリア、モロッコ、エジプトに遅れをとってはいるが、ただし、テコンドーなどへの女性参加数は、他のアラブ諸国よりも多いという。第5章において、ジョルダンの体育カリキュラムの中にテコンドーが入っていることが明らかになったが、テコンドーはジョルダンでは重視されているスポーツの1つのようなのである。現在、ジョルダンでは、34もの競技連盟があるが、そのうちの17団体で、女性のスポーツが実施されている。また、同氏は、女性スポーツに対して、いくつか考えなければならない問題があるとし、以下のよう  
に述べた。「例えば、水泳などです。「水泳」は我々の文化や習慣の観点から考えて、これまで女性が参加するためには色々障害がありました。しかし、屋内のプールなど開設することで、女性が締め切られた状態で泳げる状況をつくり、その解決もできるようになります」。また、どのようなスポーツに女性が参加するためにも、イシャール<sup>67</sup>があれば、問題はないとした。

エジプトの青年省大臣補佐<sup>68</sup>によれば、近年、エジプトでは、女性のスポーツに関して、あらゆる整備が進みつつあるという。まず、法的に、女性のスポーツに関する新しいものが制定されつつある。例えば、スポーツ連盟の中のポストには必ず女性が含まなければならないという法律も最近制定された。そうでない場合、青年省大臣が女性を任命できるようになっている。また、女性がユースセンターに行って活動できるように策が練られており、各競技の打ち合わせやアレンジにも女性が参加できるような法的整備がされたとのことであった。また同氏によれば、現在、エジプトの政府機関のスポーツ施設では、性差による区別は認められなくなっているという。つまり男性が使用できる場所は女性も使用できるようにならなければならないという法律も作られた。また、女性が女性専用の施設を利用できるように、青年省は特別な費用をあてることができるという。例えば、プールなどがそうであり、青年省は、できる限り女性がユースセンターを使うようなケアをしているとのことであ

---

<sup>65</sup> 2000年12月18日、ジョルダン青年スポーツ省オリンピック委員会チーフ、ハムザ・アル・タル氏に対して行ったインタビューによる。

<sup>66</sup> ナビーラ・ファラーハ・ナハル氏：ジョルダンオリンピック委員会（JOC）の女性スポーツメンバーであり、JOCのアラブ地区スポーツプログラムの局長を兼任している。ジョルダン代表として、国内外の女性スポーツに関する会議に数多く出席しているという。

<sup>67</sup> 頭に巻くスカーフのことを指す。

<sup>68</sup> 2000年12月31日、エジプト青年省大臣相談役アサーム・アル・ハリール氏に対して実施したインタビュー調査による。同氏は、ヘロワン大学体育学部においても教鞭をとっている。



った。また、エジプトでは、近年、女性がサッカー、重量挙げ、ボクシング、レスリングなどにも参加できるようになった。ただし、ボディビルディングだけは認められていない。

以上、各国において、女性スポーツを振興するための新組織や新法律などが設立されるなど、女性のスポーツには力を入れていることがうかがえた。どの国においても、女性がスポーツに取り組む機会を広げようと画策していると同時に、女性専用の施設づくりの重要性が指摘されていた。

アラブ女性スポーツ協会事務局長ヌール氏<sup>69</sup>は、当協会の発行する広報の冒頭において、

「アラブ社会では、女性スポーツの位置づけに関して明らかに矛盾が存在する。あるアラブの国では、女性スポーツを向上させ、その水準を国際的ならびにオリンピック選手権を達成するまで高める方法を見つけるために議論し、またあるアラブの国では、女性がスポーツを行うことが許される可能性について議論をしている。」<sup>70</sup>

と述べ、同じアラブ諸国においても、女性スポーツの振興・発展レベルは異なるといった事を主張している。また同氏は、こうした矛盾があるため、アラブ女性スポーツ振興のためには、アラブ諸国それぞれの国に適した女性のスポーツの振興方法を検討することが必要であり、それらの国々の地位や能力を考慮したものでなくてはならないと指摘している。

当該広報の中では、アラブでのさまざまな女性スポーツの取り組みなどが紹介されているが、どの国々においても以前と比べると、近年、女性のスポーツは力を入れられつつあるようである。ただ、ヌール氏の指摘するように、アラブという枠で一括りにできないほど、それぞれの国や地域において、女性スポーツの様相は違うと思われるので、アラブの国々における女性スポーツの普遍的な課題と、地域ごとの課題を検討していくことが、今後重要になると思われる。

## 7-2 身体教育の課題

これらの国々での身体教育問題を考える際には、まずは前節で述べた女性問題が最重要課題となる。本節では女性スポーツ以外の身体教育の問題・課題について検討する。ここでは各国において体育関係者に対して行ったインタビューなどから得られた情報などを元に、それぞれの国の課題について検討する。

### 7-2-1 シリアの身体教育の課題

シリア教育省副大臣は、シリアの学校体育について、適切な運動場がないこと、体育に必要な施設・用具とそれを準備するための資金が不足していることをまず大きな課題として指摘している<sup>71</sup>。また、スポーツの普及という観点からも、両親が子供に勉強をさせるためにスポーツ活動などをさせない傾向があることを指摘している。これまで行われてきた研究の中でも、シリアの学校体育については、

<sup>69</sup> 当時の協会長ヌール・アル・ホダ・カルフォ氏。同氏は以前シリア総合スポーツ連盟で国際渉外部長を兼任していた。

<sup>70</sup> アラブ女性スポーツ協会情報局（1997）p. 1.

<sup>71</sup> 2001年1月14日に、シリア教育省副大臣カマル・ターハ氏に対して行ったインタビューによる。

施設・用具不足、或いは実際の施設と指導要領の乖離などの問題が明らかにされてきており<sup>72</sup>、このことが体育教師の勤務意欲の減退に繋がっていることも明らかになった。これらのことについて、副大臣は、「まずはじめに必要なスポーツ施設・用具への予算投下が重要である」とし、今後新設される学校には、広い運動場をつくるようにし、また現存する、施設のない古い学校に対しては、学校近辺にスポーツセンターを設置し、その場を施設として利用できるように計画しているという。

また、シリアのスポーツ教育の大きな課題は、高等教育にもある。唯一の4年制大学であるティシュリーン大学体育学部が開設されたものの、そこで指導に携わることの出来る優秀な人材がいないという事実がある。同大学体育学部長も、「教官の資格の問題が何より大きな問題です」と指摘したが<sup>73</sup>、高い資格を有した教官が少ないことがシリアでの課題となっている。

### 7-2-2 ジョルダンの身体教育の課題

ジョルダン教育省教育活動局体育活動課長のウサマ氏<sup>74</sup>は、ジョルダンの学校体育について、やはり施設の問題を指摘した。特に、使用できないような体操用の器具などがある反面、必要な用具がないとし、現場に適していない施設・用具の供給が問題であると指摘している。これらは、海外（先進国）からの支援の際、実際に学校現場で使用可能かどうかに関わらず、学習指導要領を基に必要な施設とされるものが提供されたりすることも一因であるという。つまりは、シリアと同様、指導要領と現場の乖離問題があることを示している。また同氏は、現在の学校体育の時間数だけでは、十分な成果は期待できないと述べると同時に、体育教師不足の状況について指摘した。また、学校の施設不足から、二部制が実施されている学校などでは、全体授業時間が短くなるため、体育を実施しない所もあるという。体育は音楽などと同様に成績評価がないので、学校教育の中でも重視されないと指摘している。スポーツ普及という観点からも、両親の体育への意識の低さが問題になっていると述べた。

また、ジョルダン・アンマン市内の高校体育教師<sup>75</sup>も、使用できない施設の存在を指摘した。例えば、コンクリートのグラウンドしかない学校に、槍がたくさんあるといった状況や、重すぎる跳び箱で、運べないなどといった状況である。同氏は、学校体育の課題として、施設不足が体育教師の労働意欲を減退させていることが大きな課題であるとし、また、体育教師不足により、教師の授業の持ちコマ数が多くなってしまいうことも、体育教師の労働意欲を失わせる原因として指摘している。

また、高等教育の課題として、ジョルダン大学体育学部長<sup>76</sup>は、まず施設不足の現状を述べた上で、若い世代の教官が少ないこと、大学卒業後のスポーツ方面での進路の開拓が必要であるとした。そして同氏は、第5章で述べたが、入学試験に体育・スポーツの実技試験がなされないことが大きな問題

<sup>72</sup> 齊藤一彦（1998）pp. 421-426.及び同（1999）pp. 64-81.

<sup>73</sup> 2001年1月11日、ティシュリーン大学体育学部長ウサマ・ハッサン氏に対して行ったインタビューによる。

<sup>74</sup> 2000年12月21日、ジョルダン教育省教育活動局体育活動課長ウサマ・アル・ララ氏に対して行ったインタビューによる。

<sup>75</sup> 2000年12月21日、ジョルダン、アンマン市内で体育教師を務め、また「ナショナルハウス」のスポーツ編集長を兼任している、ムハンマド・ムタウエ氏に対し、インタビューを実施した。

<sup>76</sup> 2000年12月19日、ジョルダン大学体育学部長バサーム・サワード・ハールーン氏に対して行ったインタビューによる。

であるとした。また、大学内にスポーツセンターを作り、地域スポーツの場にしたいと述べた。

### 7-2-3 エジプトの身体教育の課題

エジプトの学校体育について、教育省大臣相談役のドレイ氏<sup>77</sup>は、体育教師の人数が少なく、生徒数の増加に対応しきれていないとその問題を述べた。また、ヘロワン大学男子体育学部副学部長<sup>78</sup>は中・高で2時間ずつという体育の時間配分では十分でないとした上で、体育施設やそれに対する資金不足が大きな課題であるとした。

また、青年省大臣補佐<sup>79</sup>は、6～18歳の生徒たちが、きちんとした体育教育を受けていない場合があることが大きな課題であるとした。人口が増え、生徒数が増え、学校は二部制のところもあり、普通の授業も短縮されるなか、体育の時間もさらに短縮される傾向にあるという。また、学校体育の施設不足も問題であるとした。生徒数の増加に伴い、グラウンドに新しい校舎を建てたりしなければならぬケースも増加していると述べ、生徒数増加も学校のグラウンドのスペースに影響を及ぼしているとした。また、体育教師の人数、体育学部の卒業生がまだ少ないこと、あるいは、体育教師の月給が安く、体育教師をやめて他の職を得ようとする傾向についても問題であるとした。尚、地域スポーツに対して、ヘロワン大学副学部長は、国民、両親らのスポーツに対しての意識の低さを指摘した。

### 7-2-4 総括

以上の通り、これら3カ国、それぞれ課題のレベルは異なるものの、共通の課題として、施設不足、体育教師不足、両親の体育・スポーツに対する意識の低さなどが指摘された。これらのことは、発展途上国の体育・スポーツを考える際にも、キーワードとなる事項であろう。また、各国において、地域に「スポーツセンター」を設立することによって、学校体育施設の問題を克服しようとしている動きがみられた。既にエジプトにおいては、数多くのユースセンターができており、ジョルダンやシリアでも同様のセンターができつつある。これらのように、学校教育機関での限界を考慮し、学校体育の重要性を認識しつつも、地域社会体育の方面へ力を入れつつあることが明らかになった。

## 7-3 わが国の国際協力のあり方に関する考察

これまで、シリア、ジョルダン、エジプトの3カ国における身体教育事情を、さまざまな面から検討してきた。それぞれの国で、身体教育分野にはさまざまな努力がなされてきており、これらに対して、体育教育先進国である日本が果たし得る役割も決して小さくないものと思われる。

---

<sup>77</sup> 2000年12月31日、エジプト教育省大臣相談役（教育カリキュラム担当）ドレイ・アフマル・サブリー・ザイエル氏に対して実施したインタビューによる。

<sup>78</sup> 2000年12月31日、ヘロワン大学男子体育学部副学部長アフマド・マーハル・アヌール氏に対して実施したインタビューによる。

<sup>79</sup> 2000年12月31日、エジプト青年省大臣相談役アサーム・アル・ハリール氏に対して行ったインタビューによる。

まず本調査から得られた結果から、1つの重要な国際協力の方法として考えられるのが、これらの国々において新設、あるいは増設されつつある体育学部への援助である。体育学部は将来の体育教師、スポーツ指導者を育成する場であることを考えると、そこへ援助を実施することは、国の根幹を支える、極めて重要な事業となり得る。特に、ようやく1つの体育学部が新設されたシリアや、ようやく初の博士課程を設立しようとしているジョルダンにおいては、大学における人材不足が課題になっていることや、人材不足に対して、先進国に期待している部分が大きいことも、この度の調査で窺い知ることが出来た。ただ、こうした援助を施すためには、現在の体育・スポーツ分野の支援方策では、限界があると思われる。これら体育学部などで、必要とされている人材は、高い資質を持った指導者である。資格の面で考えれば、最低でも修士号、できれば博士号を所有した人材を派遣する必要がある。ところが、現在実施しているJOCV事業のレベルに、このような高い資質を有した人材の派遣を望むのは困難であることも事実である。そこで、JOCVシニア隊員、シニアボランティア、あるいはJOCVの枠に固執せずに、派遣専門家など、体育・スポーツ隊員以外の枠を用いることが妥当なのではないかと思われる。

また、これらの国々では、女性の身体教育問題が大きな課題としてあることから、女性スポーツの振興という意味においては、草の根レベルのJOCV隊員が果たしうる役割は大きいと思われる。このようにスポーツの普及という草の根レベルでの活動と上述した専門家などが体育・スポーツ中枢機関に入る組み合わせ、つまり専門家とJOCVとでチームを組んで、当該諸国における身体教育活動に携わる形態などが望ましいものと思われる。

次に、違った観点から概観してみよう。本報告書の6章においても、女性の運動に対する状況や、成人女性が生活習慣病予備軍状態にある可能性などを検証したが、今までに、生活習慣病対策に対して、積極的な援助が実施されているという報告は、中近東だけではなく、他の発展途上国においても見当たらない。近年、発展途上国において、急速に都市化・工業化が進んできているが、これらに伴い、運動不足やストレスなども、社会問題になりつつある。このままでは途上国において、医療費の高騰から財政が圧迫されるという先進国が歩んできた道をたどり、さらなる援助が必要となり、先進国の負担も増大するという悪循環が生じる恐れがある。中近東諸国でいえば、まず成人女性がその可能性を有している。そこで、予防医学という観点から生活習慣病を捉える必要がある。健康に生涯を送るには、運動・栄養・休養が不可欠であるという知識を理解させ、それを実践できるような支援形態が必要となってくるであろう。このように、予防医学の観点からも、身体教育分野の支援を位置付けていくことが必要であると思われ、健康・栄養プロジェクトなどとの関わりも検討していく必要がある。今回シリアで行ったような体格、体力・運動能力テストを、他の国々でも実施し、それらのデータと発育・発達に関する資料や健康を意識した予防医学に不可欠な体育関係の基礎的資料などを相手国政府に提供することは、大変貴重な情報になりうると思われる。このたびの調査においても、両親や身近な人々のスポーツの重要性に対する理解が得られないことがスポーツ振興、女性スポーツ振興の阻害要因となっていることが明らかになったが、体力調査のデータなどを示し、健康や予防医学の重要性が、適した形で広まれば、スポーツ・身体運動に対する社会的な意識を高めることに繋がり、またこのことはスポーツ振興のみならず、途上国の人々の健康を支える重要な活動になるものと思われる。

遊戯性を持つ“スポーツ”という言葉は、「遊び」「楽しむもの」というニュアンスを帯びており、政治的、社会的に切迫した状況にある発展途上国に対しての援助活動としては、十分な検討を要する課題ではないと判断されがちであることは事実であろう。しかし、上述の通り、中近東諸国及び他の発展途上国においても、運動不足やストレスなどが社会問題化してきている今日、スポーツ、身体運動などの支援を検討することは、健康・社会問題の改善に関わる重要な事項なのである。特に、「ジェンダー」が問題とされている中近東諸国においては、成人女性の健康問題に対しても、あるいは女性の社会的地位の向上にも、身体教育、スポーツ運動などがなしうる役割は小さくないと考える。

中進国に近いといわれるこれら中近東諸国に対して、わが国が果たしうる1つの大きな役割として、女性の社会的地位の向上につながり、また人々の健康を向上させ、且つ国民に夢と希望を与える可能性を有する“身体教育援助”はとりわけ重要な課題であるように思われる。

## 参考文献

### 日本語文献

- 石井 直方 (1998) 『Sports medicine 筋力トレーニング』 1998 No.22 Book House HD
- 加納弘勝 (1992) 「イスラムの女性とイスラムのスポーツ」 『体育の科学 42 巻 9 号』
- 国際協力事業団 (1992) エジプト国別援助検討会報告書
- 国際協力事業団 (1996) ジョルダン国別援助検討会報告書
- 齊藤一彦 (1998) 「シリアにおけるスポーツ教育の現状と課題」 中国四国教育学会編 『教育学研究紀要』 第44 巻 第一部
- (1999) 「シリアにおけるスポーツ教育の現状と課題」 広島大学大学院国際協力研究科修士論文
- 財務省 (2001) 『平成 13 年度予算政府原案』
- 里見悦郎 (1991) 『最新ソビエトスポーツ研究—その歴史と制度—』 不昧堂出版
- 新藤精二 (1981) 「回教国の女性とスポーツ」 『体育の科学 31 巻 1 号』
- 東京大学身体運動科学研究室編 (2000) 『教養としてのスポーツ・身体運動』 東京大学出版会
- トレーニング科学研究会編 (1996) 『トレーニング科学ハンドブック』 朝倉書店
- 日本ユネスコ国内委員会編集 (1958) 『世界の初等教育』 民主教育協会
- (1961) 『世界の中等教育』 民主教育協会
- (1963) 『世界の中等教育』 民主教育協会
- (1964) 『世界の初等教育』 民主教育協会
- (1969) 『世界の高等教育』 財団法人学校教育研究所
- 松浦義行 (1983) 『体力測定法』 朝倉書店
- 文部省編 (1996) 『諸外国の学校教育 アジア・オセアニア・アフリカ編』
- 文部省体育局 (2000) 『平成 11 年度 体力・運動能力調査報告書』 文部省

### 英語文献

- Arab Republic of Egypt Central Agency for public Mobilisation and statistics (2000) *The Statistical Year book 1993-1999*.
- Gennaoui, A. (1994), Syria : System of Education, Torsten Husén, *The International Encyclopedia of Education* (2nd ed.), Pergamon, p.5888.
- The Hashimite Kingdom of Jordan Council of Higher Education(1999) *The Annual Statistical Report on Higher Education in Jordan for the year 1998/1999*

### アラビア語文献

- アラブ女性スポーツ協会情報局 (1997) 『アラブ女性スポーツ協会』 不定期広報
- エジプト教育省 (1993) 『体育学習指導要領—高等学校段階男女 1993-1994 年』
- (1995a) 『教師の手引き・体育活動第 1 学年 1995-1996 年』

- (1995b) 『教師の手引き・体育活動第3学年 1995-1996年』
- (1995c) 『学習指導要領・中等学校段階一男女 1995-1996年』
- (1997) 『教師の手引き・体育活動第4学年 1997-1998年』
- (1998) 『教師の手引き・体育活動第2学年 1998-1999年』
- (2000) エジプト教育省内部資料 (2000-2001年度に関する資料)
- シリア教育省 (1963) 『初等学校学習指導要領』
- (1967a) 『初等教育制度内規』
- (1967b) 『中等学校学習指導要領』
- (1967c) 『高等学校学習指導要領』
- *Statistics of Education and Exams for School Year.1969年度～1997年度まで*
- (1983) 『初等教育制度内規』
- (1985) 『体育師範学校内規』
- (1994a) 『初等教育制度内規』
- (1994b) 『中等教育制度内規』
- (1997) 『シリア教育年次報告書』
- (1997) 『教育年次報告書』
- ジョルダン教育省 (1971) 『体育学習指導要領 (高等学校)』
- (1987) 『基礎教育段階体育学習指導要領』
- (1989) 『基礎教育段階体育学習指導要領』
- (1995) 『体育学習指導要領 (高等学校)』
- (1998) 『教育年次報告書』
- (2000) 『教育省令 1256号』
- ジョルダン大学体育学部 (出版年不詳) 『体育学部内規』
- ティシュリーン大学体育学部 (出版年不詳) 『ティシュリーン大学体育学部内規』
- ヘロワン大学女子体育学部 (2000) 『ヘロワン大学女子体育学部内規 2000-2001年』
- マロワン・アラファト (1999) 「シリアの体育教育機関とその発展方法」 ドーバートリニティ大学博士論文

## 主要面談者一覧

### (1) シリア

#### ○教育省

- カマル・ターハ氏（教育省副大臣）
- バハレート・ダウド氏（教育省体育局長）
- ズイアド・マハジュ氏（教育省体育局学校体育課長）
- バシーマ・マドゥワル氏（教育省学校保健局長）

#### ○スポーツ教育指導者養成機関

- ウサマ・ハッサン氏（ティシュリーン大学体育学部長）
- マロワン・アラファト氏（ダマスカス男子体育師範学校長）
- サフアン・ガザール氏（元アレppo男子体育師範学校長）
- アブデル・マレック・アカド氏（アレppo女子体育師範学校長）
- アレフ・アガール・クラウワー氏（アレppoスポーツ研修センター長）

#### ○シリア総合スポーツ連盟

- ヌーリー・バラカート氏（シリア総合スポーツ連盟総裁：元ティシュリーン大学体育学部長）
- モウラセム・ゴウトク氏（シリアオリンピック委員会事務局長）
- マロワン・ドゥイマル氏（スポーツ連盟科学研究局長）
- フェイサル・アルバスリー氏（スポーツ連盟執行委員会、オリンピック委員会メンバー）
- ムハンマド・ムバイエッド（ラタキアスポーツ委員会球技部（ティシュリーン大学体育学部教官））

### (2) ジョルダン

#### ○教育省関係

- ウサマ・アル・ララ氏（教育省教育活動局体育活動課長）
- ムハンマド・ムタウェ氏（高校体育教師兼『ナショナルハウス』スポーツ編集長）

#### ○青年スポーツ省

- ハムザ・アル・タル氏（青年スポーツ省オリンピック委員会チーフ）
- タルブ・ブドゥル氏（青年スポーツ省広報局広報課長）
- バッサム・アル・バワ氏（青年スポーツ省財政局長）
- ナビーラ・ファラーハ・ナハル氏（ジョルダンオリンピック委員会、女性スポーツ委員会のメンバー兼ジョルダンオリンピック委員会アラブ地区スポーツプログラム局長）



○スポーツ教育指導者養成機関

バサーム・サウド・ハールーン氏（ジョルダン大学体育学部長）

ムハンマド・ハリール氏（ジョルダン大学体育学部教官）

**(3) エジプト**

○教育省

ドレイ・アフマル・サブリー・ザイエール氏（教育省大臣相談役教育カリキュラム担当）

○スポーツ教育指導者養成機関

アフマド・マーハル・アヌール氏（ヘロワン大学男子体育学部副学部長）

スルール・アサド氏（ヘロワン大学男子体育学部教官）

バダウイ・アブドゥ・イルアール氏（ヘロワン大学男子体育学部教官）

マハーサン・アーマル氏（ヘロワン大学女子体育学部副学部長）

○青年省

アサーム・アル・ハリール氏（青年省大臣相談役兼ヘロワン大学体育学部教官）